

目次

I. 調査概要	2
II. 調査結果	3
1. 調査対象者の属性	4
2. 総括	6
3. 個別総括	7
3-1. 四万十川との関わり	7
3-2. 環境を守る行動や意欲	9
3-3. 通信手段について	11
3-4. 居住意思と生活の満足度	12
4. 概要	14
4-1. 四万十川との関わり	14
4-2. 環境を守る行動や意欲	15
4-3. 通信手段について	16
4-4. 居住意思と生活の満足度	16
III. 分析結果	17
1. 四万十川との関わり	18
1-1. 川に出かけたこと	18
1-2. 出かけた頻度	20
1-3. 誰と出かけたか	22
1-4. 誰と何をしたか	24
2. 環境を守る行動や意欲	34
2-1. 環境を守る行動	34
2-2. 家庭での水切り袋の設置	38
2-3. 家庭での生ゴミ堆肥化への取り組み	39
2-4. 環境に関する活動への参加の有無	40
2-5. 環境保全のための寄付へ協力したいと思うか	41
2-6. 環境保全のための寄付協力可能な上限額	42
3. 通信手段について	43
3-1. 携帯電話の有無について	43
3-2. 携帯電話でのネット利用状況	44
3-3. 自宅でのネット利用の可否	45
4. 居住意思と生活の満足度	46
4-1. 現在の居住地域に住み続けたいと思うか	46
4-2. 現在の居住地域への満足度	47
4-3. 生活の満足度	48
IV. 資料	
調査票、リマインドハガキ、集計表（単純集計表・クロス集計表）	
（参考資料）市町村別サンプル数、流域別回収数・回収率、市町村別クロス集計表	

I. 調査概要

1. 調査目的

「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」の目的の達成状況を把握し、進行管理を行なうために必要な住民意識調査(条例第37条)を行なうため、流域住民への調査を実施するものとする。

2. 調査項目

- (1) 四万十川との関わり
- (2) 環境を守る行動や意欲
- (3) 通信手段について
- (4) 居住意思と満足度

3. 調査対象

- (1) 母集団 四万十川流域5町村20歳以上の者
- (2) 標本数 1,000人
- (3) 抽出法 層化抽出法(市町村合併後の新市町村単位でなく旧市町村単位での抽出を行う)
梶原町、津野町(旧東津野村)、四万十町(旧窪川町、旧大正町、旧十和村)、
四万十市(旧中村市、旧西土佐村)、中土佐町(旧大野見村)
※分析にあたり上記の8地区を、流域に対応した下記の3居住地域に分類する。
上流域: 梶原町、東津野村、大野見村
中流域: 十和村、大正町、窪川町
下流域: 中村市、西土佐村

4. 調査期間 平成24年8月8日～8月27日

5. 調査方法 郵送法

6. 有効回収数(率) 518人(51.8%)

7. 調査結果の見方

- 7-1. 本報告書内で使用してある「N」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 7-2. 結果数値(%)は「少数第二位を四捨五入」してあるので、内訳の合計が一致しないこともある。
- 7-3. 「S.A」は1回答者が1つだけ回答をすることができる質問、「M.A.」は1回答者が2以上の回答をすることができる質問の略称である。
- 7-4. 分析文中の回答率を示す数値について、S.Aの回答率は「割合」、M.A.の回答率は「比率」と呼称するものとする。

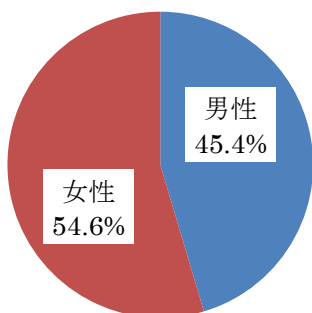
II. 調查結果

Ⅱ. 調査結果

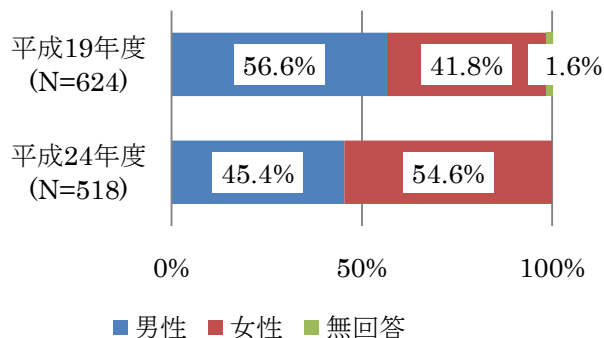
1. 調査対象者の属性

基本的属性は以下の通り。

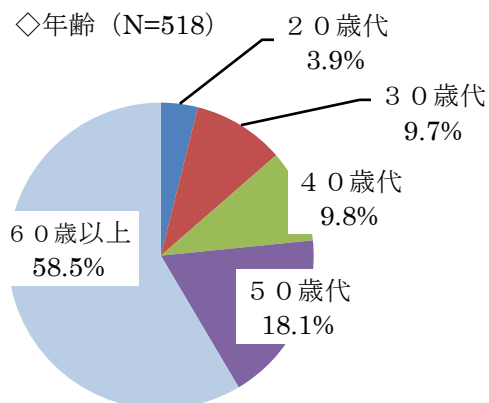
◇性別 (N=518)



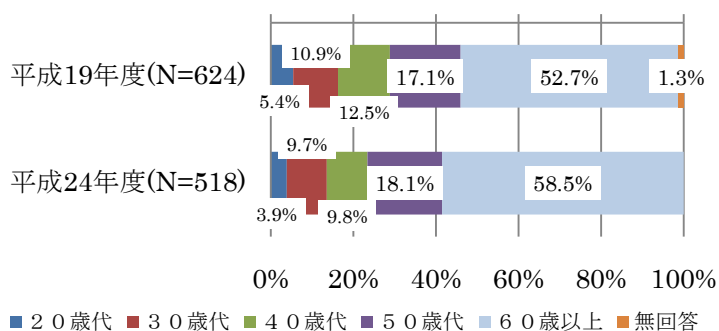
◇性別 (前回との比較)



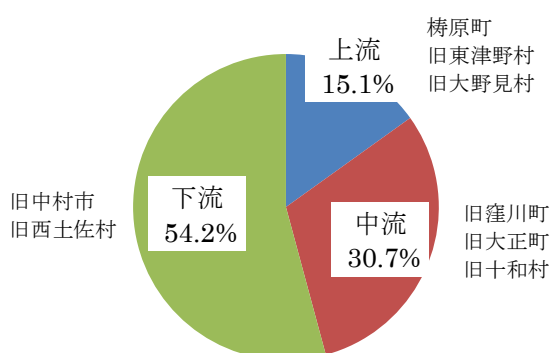
◇年齢 (N=518)



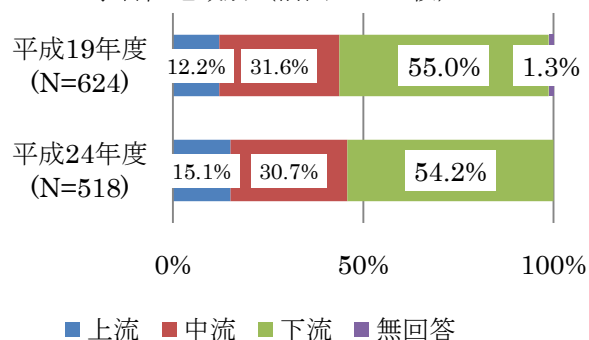
◇年齢 (前回との比較)

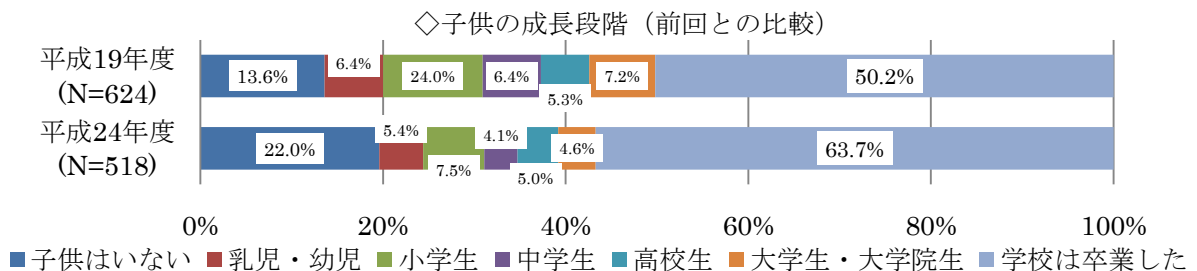
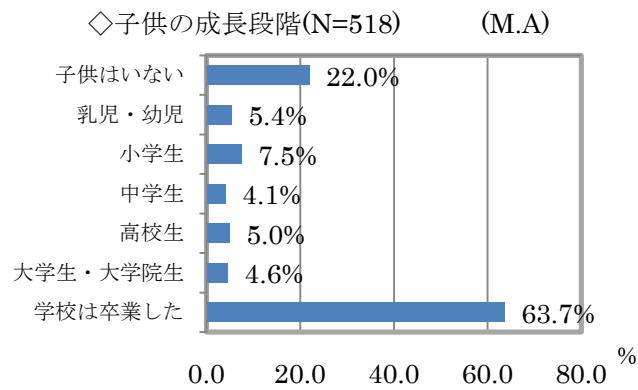
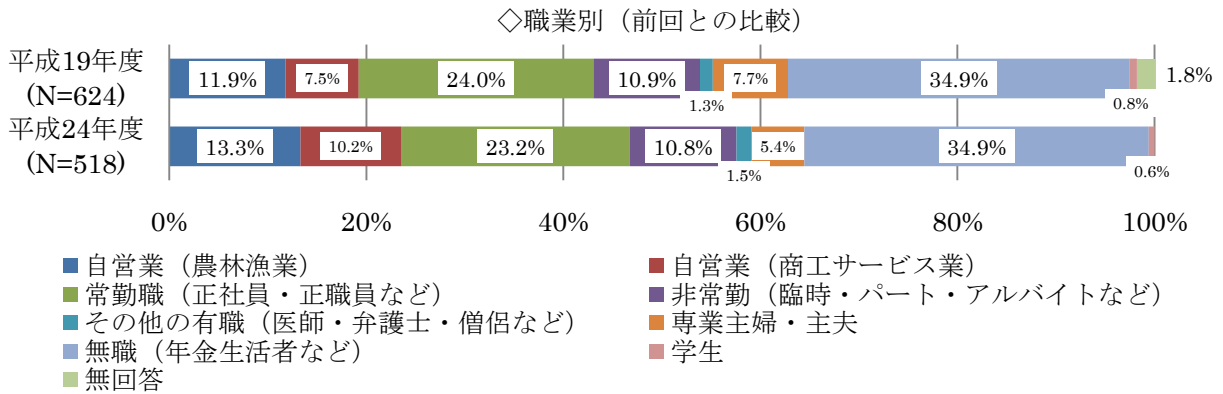
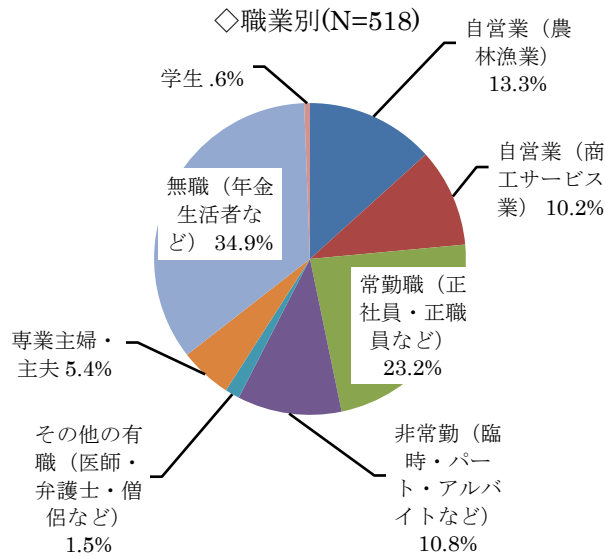


◇居住地域別 (N=518)



◇居住地域別 (前回との比較)





2. 総括

今回の調査の結果見えてきたのは、平成19年度の前回調査と同様、川との共生や環境を意識しながら、暮らしの中でも身近に川に関わっている四万十川流域住民の姿である。前回調査から比較するとその割合こそ少し下がったものの、回答者の過半数が川にでかけ、その中の4割以上の人は月に1回以上は散歩や水遊び、釣りなどを楽しんでいる。満足度に関して言えば、7割近くの人が現在の居住地域に満足しており、8割を超える人がそこに住み続けたいと思っている。なかでも自然環境については、7割以上の人が居住地域のまわりに親しめる自然があることに満足しており、その環境を保全していくための行動や寄付などの協力も惜しまないという思いが見えてくる。

しかしその一方で、道路の整備状況や通勤・通学、公共交通機関などの交通インフラ、また教育環境への不満、失業や収入に対する不安が大きく、また東日本大震災の影響からか災害対策への満足度は低くなっており、先の見えない不況、安心して子供を育てることへの懸念、南海地震に対して住民が抱える不安も見てとれる。

ここ10年で急激に普及した携帯電話、インターネットの使用状況は調査地域においてもその傾向は顕著であるが、携帯電話によるネットの利用は前回からさほど変化が見られない。情報・通信インフラの整備がひとつの大きな目標ではあるが、今後それに加えて住民への利用促進や啓発の取り組みが必要であろう。

また、本調査の中で前回よりもさらに傾向が強まってきたのが住民の高齢化であり、回答者の割合を見ても6割近くが60歳以上、20歳代はわずか4%にとどまるという結果になった。

今回の結果では、医療環境に対する満足度は比較的高い傾向を示しているが、その一方で安定した収入や失業の不安なく働ける環境に対する満足度は低く、これからの高齢化社会に向けた社会基盤の整備、景気対策の実施については重要性を増すと思える。

しかし、これらの問題については県や流域市町の行政機関だけでたやすく解決できるものではなく、今後地域住民や民間企業、学術機関等とのさらなる連携・協働の施策を求められているものといえる。

3. 個別総括

3-1. 四万十川との関わり

【この1年間に仕事以外で川に出かけたことがあるか】

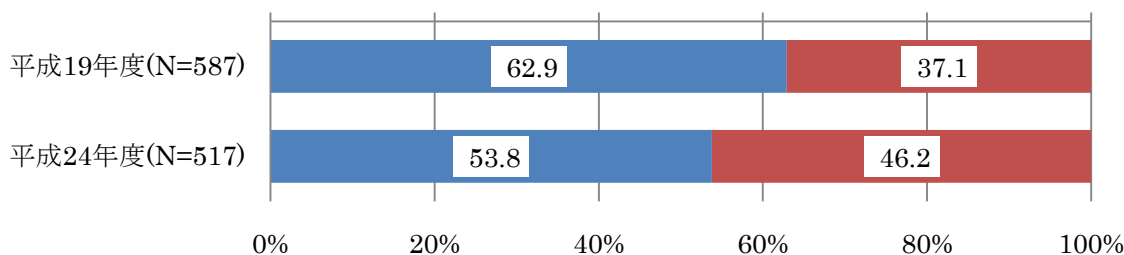
出かけたことが「ある」と答えた人の割合は53.8%（前回調査から9.1ポイント減少）

「ある」と答えた人に、その「頻度」「誰と出かけたか」「川で何をしたか」について聞いたところ、以下の結果が得られた。

- ◆「頻度」…44%が「月に1~2回くらい」以上は川にでかけている（前回調査から1ポイント増加）
- ◆「誰とでかけたか」…①「ひとり」47.8%（前回調査から6.2ポイント増加）
 - ②「友人、知人」36.2%（前回から1.6ポイント減少）
 - ③「家族（小学生以下の子供を含む）」31.5%（前回から6.6ポイント減少）
- ◆「川で何をしたか」…「家族（小学生以下含む）」と「水泳、水遊び」が63.2%
 - 「家族（小学生以下含まない）」と「散歩、ジョギング、散策」が50%
 - 「親類」と「釣り、魚とり」が40.6%
 - 「友人、知人」と「釣り、魚とり」が28%
 - 「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」が60.6%
 - 「その他（の人）」と「清掃活動などのボランティア活動」が59.5%

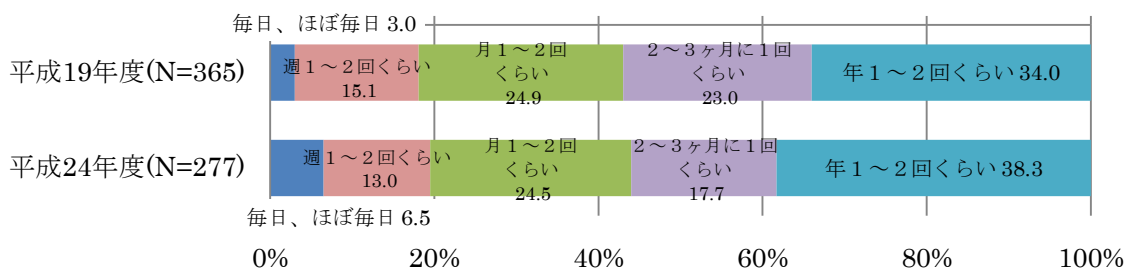
これらの結果から、四万十川流域に暮らす人の過半数が川に出かけ（そのうちの4割以上の方が月に1回以上は川に出かけている）、小学生以下の子供がいる家庭では水泳、それ以外の家族や一人では散歩、ジョギング、散策などを楽しみ、親類や友人、知人とは釣り、魚とりに出かけるほか、その他の人とは清掃活動などのボランティア活動を行っていることが分かり、様々な方法で川に触れ合っている実態が見えてくる。

◇「この1年間に仕事以外で川に出かけたことがあるか」



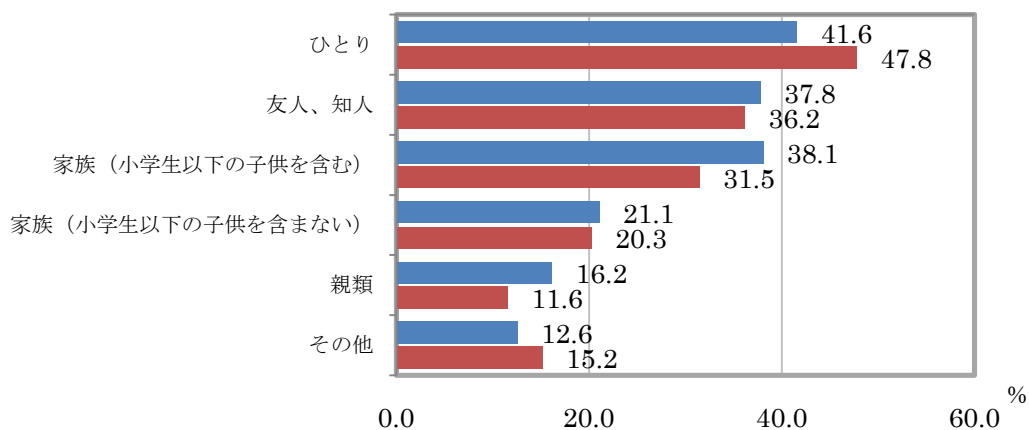
「ある」と答えた人の回答

◇「川に行く頻度」

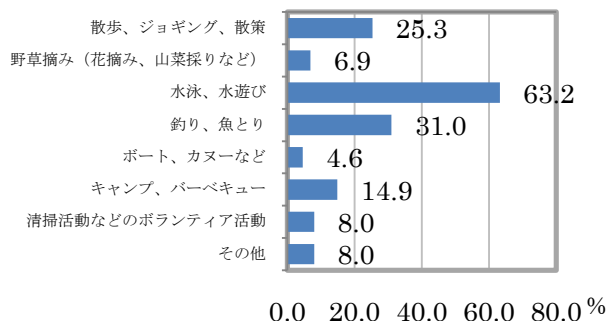


◇「誰と出かけたか」

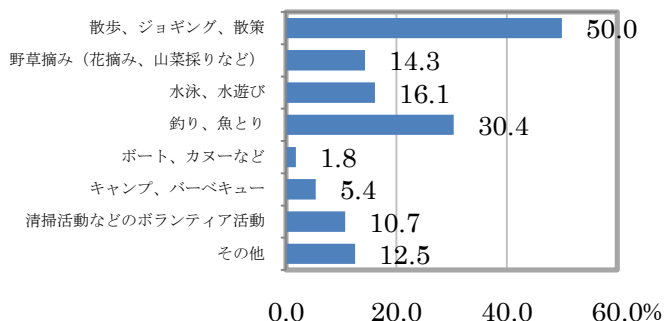
■平成19年度(N=330) ■平成24年度(N=276)



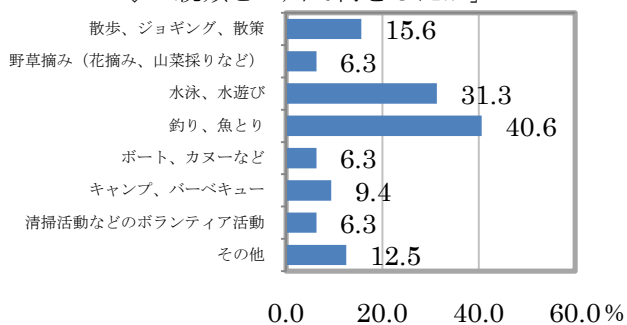
◇「家族（小学生以下の子供含む）と・川で何をしたか」



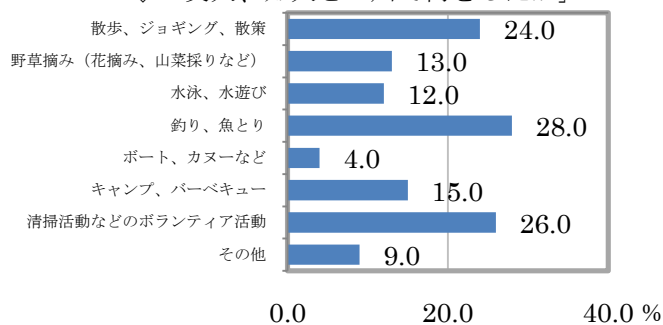
◇「家族（小学生以下の子供含まない）と・川で何をしたか」



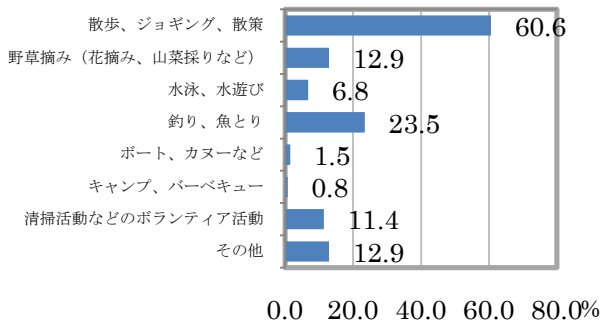
◇「親類と・川で何をしたか」



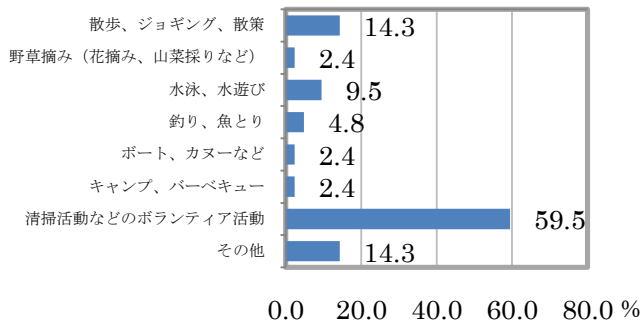
◇「友人、知人と・川で何をしたか」



◇「ひとりで・川で何をしたか」



◇「その他と・川で誰と何をしたか」

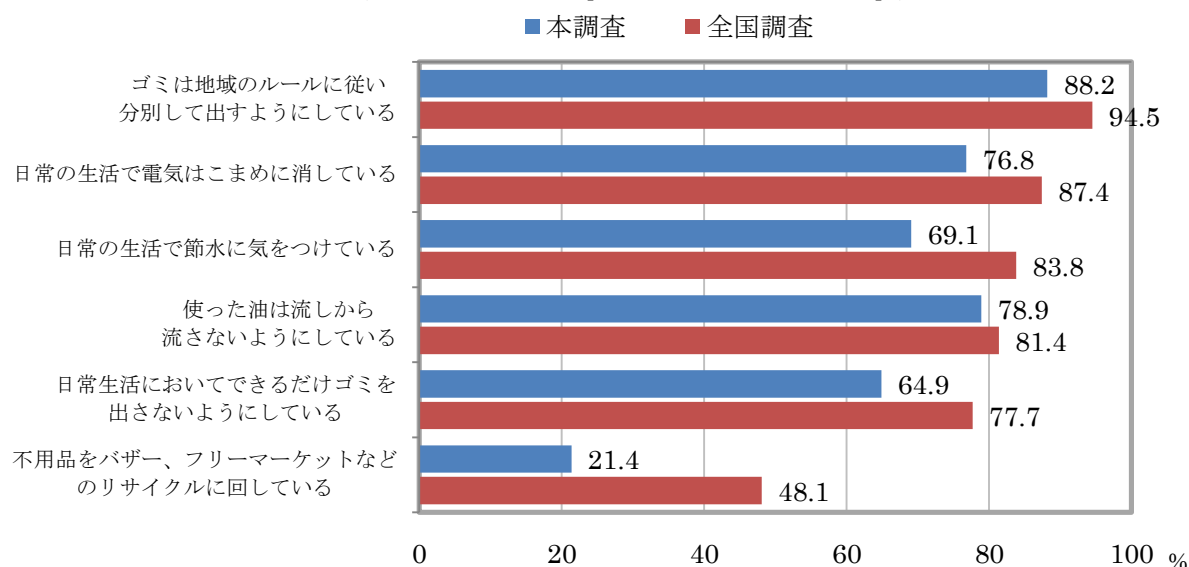


3-2. 環境を守る行動や意欲

【環境を守る行動】

環境を守るために日頃行っている行動についての質問で「いつも行っている」と「だいたい行っている」を合わせた『実施率』を項目ごとにまとめ、環境省の「環境にやさしいライフスタイル実態調査（平成22年度）」と比較すると、全ての項目において調査地域の『実施率』が全国調査の『実施率』を下回っているという結果となった。特に、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」の実施率は、全国と比較して26.7ポイントと大きく下回っている。節電、節水、ゴミ削減やリサイクルに関する項目で全国調査との差が大きくなっており、これらに対する意識の向上が課題と言える。

◇「環境を守るために日頃どのようなことをおこなっているか」 全国調査（平成22年度）との比較（「いつも行っている」+「だいたい行っている」）



【家庭で日頃、排水口や三角コーナーに水切り袋を設置しているか】

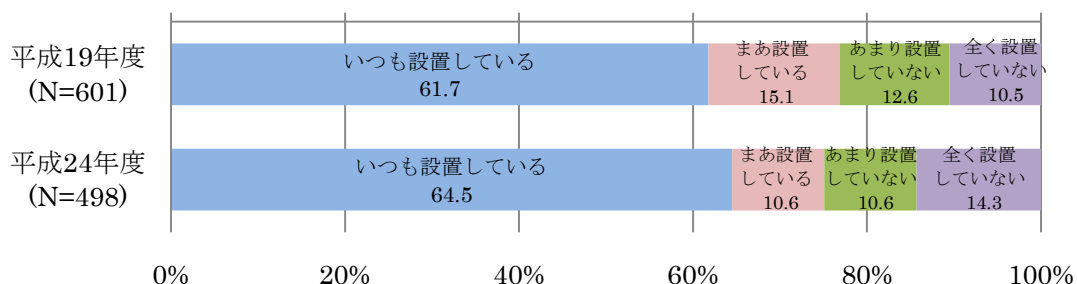
64.5%が「いつも設置している」（前回調査から2.8ポイント増加）、14.3%は「全く設置していない」（前回から3.8ポイント増加）

【家庭で日頃、生ゴミのたい肥化に取り組んでいるか】

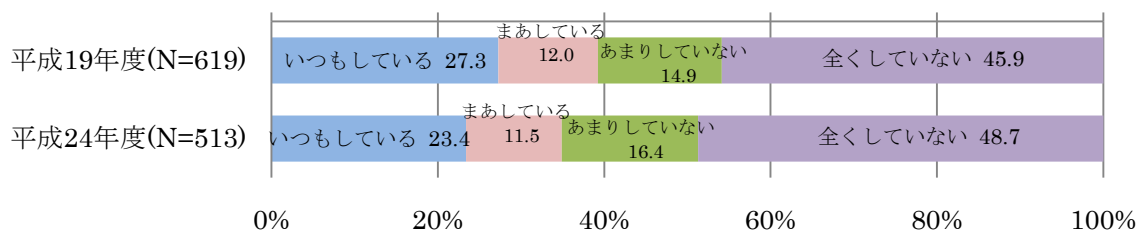
23.4%が「いつもしている」（前回から3.9ポイント減少）、48.7%が「全くしていない」（前回から2.8ポイント減少）

これらの結果から、環境に対する意識の高い人と低い人の間に、隔たりが開いている現状が見て取れる。

◇「家庭で日頃、排水口や三角コーナーに水切り袋を設置しているか」



◇「家庭で日頃、生ゴミのたい肥化に取り組んでいるか」



【四万十川や流域の環境を保全するために、寄付を募るとすれば、協力してもよいと思うか】

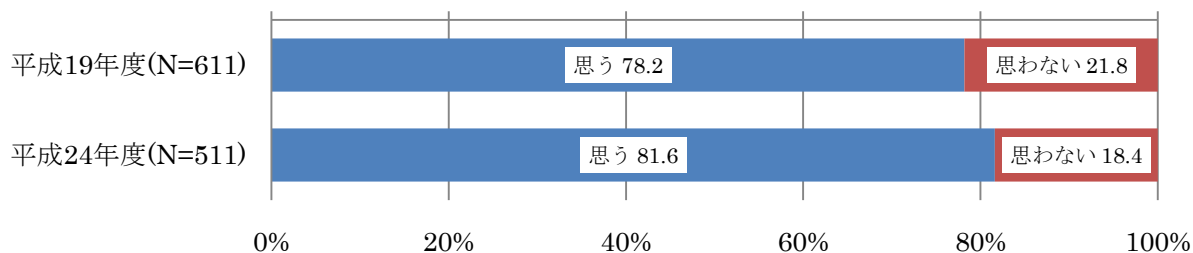
81.6%が「思う」（前回調査から 3.4 ポイント増加）

【環境保全のための寄付協力可能な上限額】

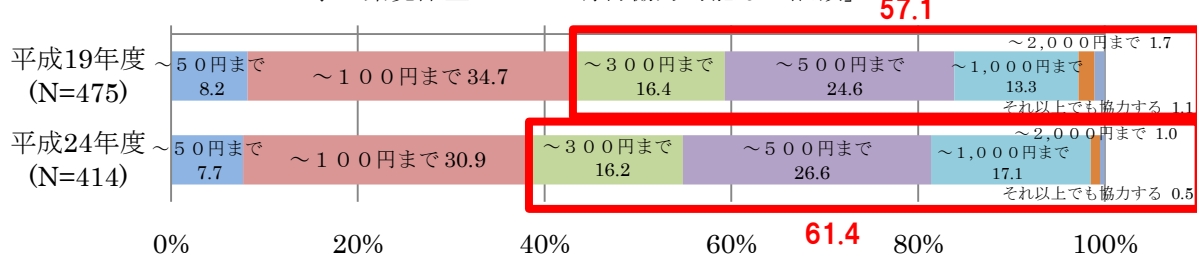
61.4%が「(1カ月あたり)～300円まで」以上の金額（前回から 4.3 ポイント増加）

これらの結果から、四万十川や流域の環境を保全するための寄付に協力しても良いと思う人は8割以上おり、その負担もある程度の額までは可能だと考えている人が増加してきていることが分かる。

◇「四万十川や流域の環境を保全するために、寄付を募るとすれば、協力してもよいと思うか」



◇「環境保全のための寄付協力可能な上限額」



3-3. 通信手段について

【携帯電話の有無】

78.2%が「持っている」（前回調査から16ポイント増加）

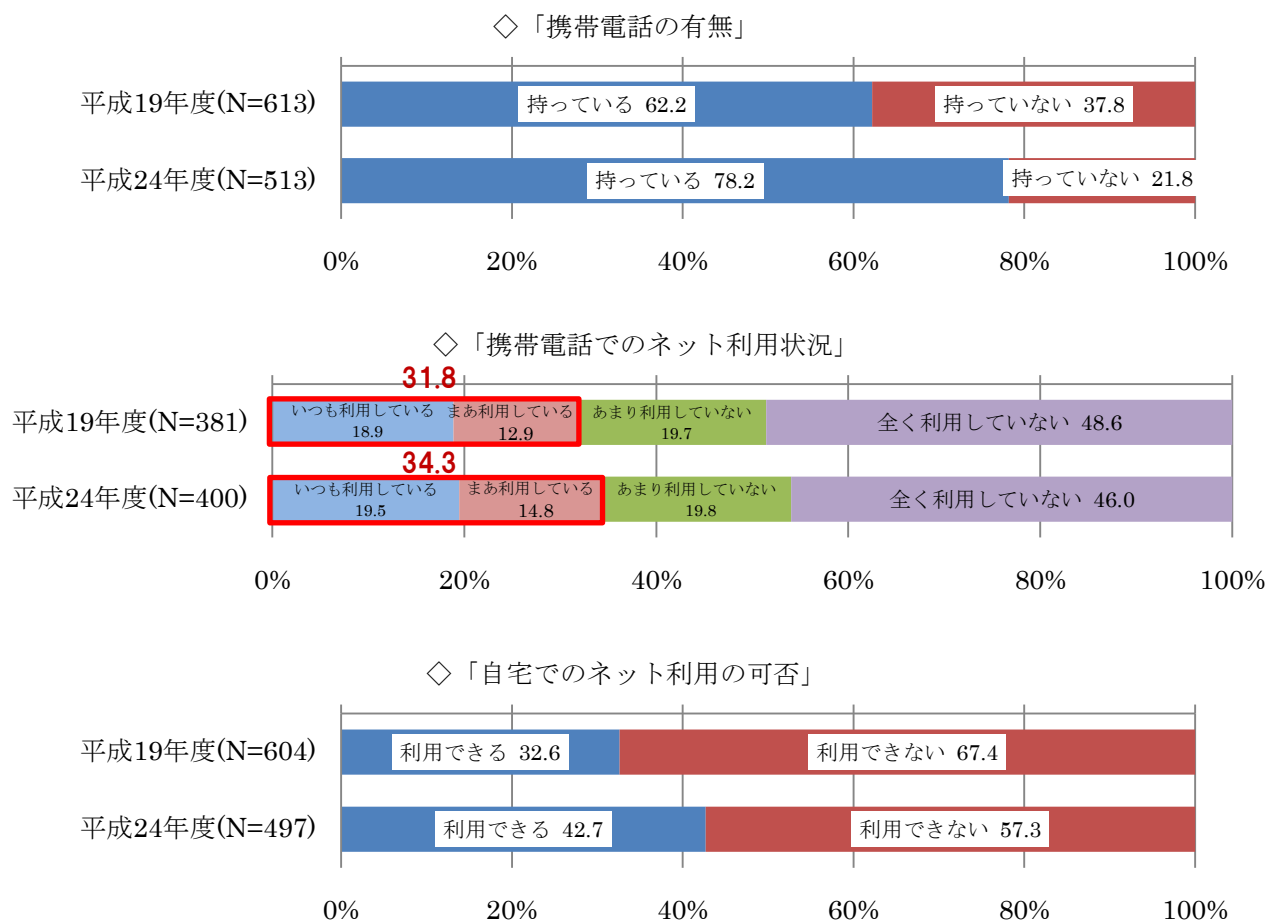
【携帯電話でのネット利用状況】

「いつも利用している」+「まあ利用している」は34.3%（前回から2.5ポイント増加）

【自宅でのネット利用の可否】

42.7%が「利用できる」（前回から10.1ポイント増加）

これらの結果から、5年前と比較して、携帯電話およびインターネット利用環境ともに普及率が向上してきた現状は明白である。しかし、携帯電話でのネット利用状況はあまり前回と変わっておらず、携帯電話、ネット接続環境が普及する一方で、携帯電話でネットを利用する人はさほど増えていないということも分かった。



3-4. 居住意思と生活の満足度

【現在の居住地域に住み続けたいと思うか】

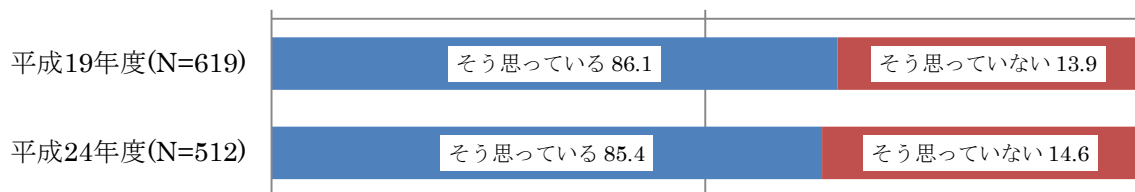
85.4%が「そう思っている」（前回調査から0.7ポイント減少）

【現在の居住地域への満足度】

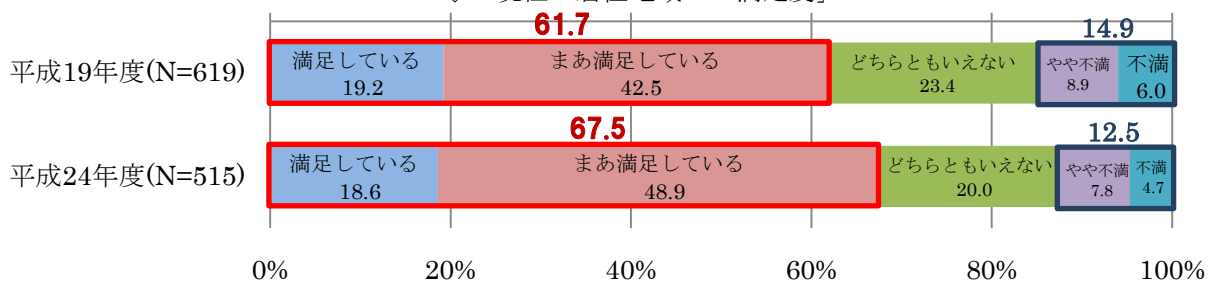
67.5%が『満足している（「満足している」＋「まあ満足している」）』（前回から5.8ポイント増加）

現在の居住地域に住み続けたいと思っている人の割合は前回とほぼ同じだが、満足している人は微増し、不満に思っている人は微減している。

◇「現在の居住地域に住み続けたいと思うか」



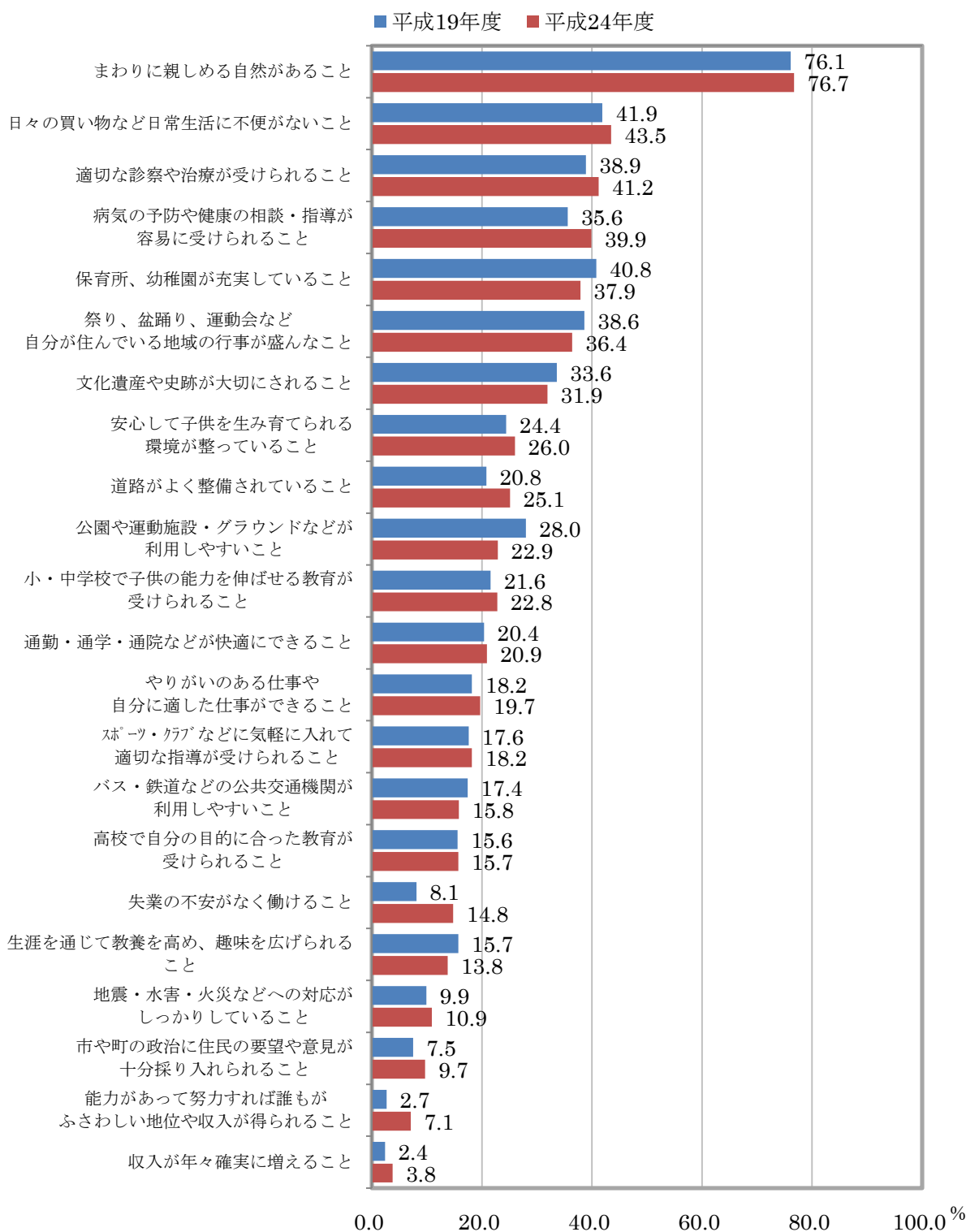
◇「現在の居住地域への満足度」



【現在の居住地域に対する満足率】

項目ごとの『満足率』（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）は、①「まわりに親しめる自然があること」が76.7%で、前回調査と同様に最も高い。続いて②「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」が43.5%、③「適切な診察や治療が受けられること」が41.2%、④「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」が39.9%、⑤「保育所、幼稚園が充実していること」が37.9%の順で高くなっている。「公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと」は前回から『満足率』の増加が大きめで、「失業の不安がなく働けること」は逆に『満足率』の減少が大きめになっている。

◇「いま住んでいる地域に対する満足度」（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）



4. 個別総括

4-1. 四万十川との関わり

この1年間に仕事以外で川に出かけたことがあるか（問1）	
<p>全体：「ある」が（53.8%） 性別：「ある」は男性（61.3%）、女性（47.5%） 年齢別：「ある」は20歳代（35%）が最も低く、40歳代（68.6%）が最も高い。その差は33.6ポイント 居住地域別：「ある」は上流域（62.8%）、中流域（51.3%）、下流域（52.7%）</p>	
問 1 で 一 あ る と 答 え た 人	川に出かけた頻度（問2）
	<p>全体：「月1～2回くらい」以上が（44%） 性別：「月1～2回くらい」以上は男性（53.9%）、女性（33.7%）。男女で20.2ポイントの差 年齢別：「月1～2回くらい」以上は60歳代（51.9%）が最も高い。20歳代を除くと上の年代ほど割合が高い 居住地域別：「月1～2回くらい」以上は下流域（44.6%）が最も高い</p>
	誰と出かけたか（問3-1）
<p>全体：①「ひとり」（47.8%）、②「友人、知人」（36.2%）、③「家族（小学生以下の子供含む）」（31.5%） 性別：男性は「ひとり」（59.4%）、女性は「家族（小学生以下含む）」「ひとり」（35.3%） 年齢別：「家族（小学生以下含む）」が高い年代は30歳代（64.3%）40歳代（45.7%） 「ひとり」が高い年代は60歳代（53.8%）、50歳代（48%） 「友人、知人」が高い年代は20歳代（71.4%） 居住地域別：各地域とも「ひとり」が高い。「友人、知人」が高い地域は上流域（38.8%）、下流域（36.7%） 「家族（小学生以下の子供を含む）」が高い地域は中流域（37.5%）</p>	
誰と何をしたか（問3-2）	
<p>性別：男女ともに「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」に行く人の比率が高い 年齢別：30歳代は「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」、「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」に行く人の比率が高い 40歳代は「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」、「家族（小学生以下の子供を含まない）」と「散歩、ジョギング、散策」に行く人の比率が高い 50歳代は「その他」と「清掃活動などのボランティア活動」、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」に行く人の比率が高い 60歳以上は「親類」と「釣り、魚とり」、「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」に行く人の比率が高い 居住地域別：上流域は「その他」と「清掃活動などのボランティア活動」、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」、「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」に行く人の比率が高い 中流域は「その他」と「清掃活動などのボランティア活動」、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」に行く人の比率が高い 下流域は「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」に行く人の比率が高い</p>	

4-2. 環境を守る行動や意欲

環境を守る行動（問4）※実施率（「いつも行っている」＋「だいたい行っている」の割合）で比較	
<p>全体：【実施率が高い項目…上位3件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」（97%） ②「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」（90.4%） ③「使った油は流しから流さないようにしている」（88.1%） <p>【実施率が低い項目…下位3件】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」（24.9%） (2)「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」（32.5%） (3)「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」（43.3%） <p>※「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」以外の項目は前回調査より実施率が増加している</p> <p>今回の結果を環境省の「平成22年度環境にやさしいライフスタイル実態調査」と比較すると、全ての項目で全国より下回っており、特に「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」の実施率が低い</p> <p>性別：男性は「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」（96.7%）、「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」（89.1%）の実施率が高い 女性は「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」（97.3%）、「使った油は流しから流さないようにしている」（92.3%）の実施率が高い</p> <p>年齢別：「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」、「新聞・雑誌は古紙回収に回している」、「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」などは上の年齢の実施率が高い</p> <p>居住地域別：上流域は「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」、「日常生活で電気はこまめに消している」、「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」などの実施率が他の地域より高い 中流域は「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」、「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」などの実施率が他の地域より高い 下流域は「使った油は流しから流さないようにしている」、「洗ざいやシャンプーなどは余分に使わないようにしている」などの実施率が他の地域より高い</p>	
家庭での水切り袋の設置（問5）	
<p>全体：「いつも設置している」が（64.5%）、「全く設置していない」が（14.3%）</p> <p>性別：「いつも設置している」は男性（66.2%）、女性（63.1%）</p> <p>年齢別：「いつも設置している」は60歳以上（68.9%）が最も高い。40歳代は「いつも設置している」（52.9%）と比較し「全く設置していない」（21.6%）の割合が高め</p> <p>居住地域別：「いつも設置している」は下流域（67.2%）が最も高い</p>	
家庭での生ゴミたい肥化への取り組み（問6）	
<p>全体：「いつもしている」が（23.4%）、「まあしている」が（11.5%）</p> <p>性別：「いつもしている」は男性（22.8%）、女性（23.8%）</p> <p>年齢別：「いつもしている」は60歳以上（27.7%）が最も高く、40歳代（9.8%）が最も低く前回調査からも大きく減少</p> <p>居住地域別：「いつもしている」は中流域（32.1%）が最も高い。上流域（28.9%）は前回調査から大きく減少</p>	
環境に関する活動への参加の有無（問7）	
<p>全体：「ある」が（52.5%）</p> <p>性別：「ある」は男性（59.2%）、女性（47%）</p> <p>年齢別：「ある」は50歳代（56.4%）が最も高く、30歳代（32%）が最も低い</p> <p>居住地域別：「ある」は上流域（71.1%）、中流域（61.5%）、下流域（42.5%）</p>	
環境保全のための寄付へ協力したいと思うか（問8）	
<p>全体：「思う」が（81.6%）</p> <p>性別：「思う」は男性（78.8%）、女性（83.9%）</p> <p>年齢別：「思う」は60歳以上（85.9%）が最も高く、30歳代（68%）が最も低い。20歳代を除くと上の年齢ほど「思う」の割合が高い</p> <p>居住地域別：「思う」は中流域（88.6）が最も高く、下流域（77.3%）が最も低い</p>	
「思う」と答えた人	環境保全のための寄付協力可能な上限額（問9）
	<p>全体：「～300円くらいまで」以上（61.4%）が前回調査より増加</p> <p>性別：男性は「～500円くらいまで」（27.8%）、女性は「～100円くらいまで」（35%）の割合が最も高い</p> <p>年齢別：「～300円くらいまで」以上は50歳代（73.1%）が最も高く、30歳代（52.9%）が最も低い</p> <p>居住地域別：「～300円くらいまで」以上は上流域（64.4%）が最も高く、前回調査からも増加</p>

4-3. 通信手段について

<p>携帯電話の有無について（問10）</p> <p>全体：「ある」が（78.2%）で前回調査から大きく増加 性別：「ある」が男性（83.2%）、女性（74%）でいずれも前回調査から大きく増加 年齢別：「ある」は50歳代（92.6%）、60歳代（66.4%）で前回調査から大きく増加 居住地域別：「ある」は上流域（80.3%）が最も高く、前回調査からも大きく増加</p>
<p>携帯電話でのネット利用状況（問11）※『利用率』（「いつも利用している」＋「まあ利用している」）で比較</p> <p>全体：『利用率』が（34.3%） 性別：『利用率』が男性（30.2%）、女性（38%） 年齢別：『利用率』は20歳代（89.5%）、60歳以上（14.2%）で、上の年齢ほど『利用率』が下がる傾向 居住地域別：『利用率』は上流域（37.7%）で、前回調査からも大きく増加</p>
<p>自宅でのネット利用の可否（問12）</p> <p>全体：「利用できる」が（42.7%）で、前回調査から増加 性別：「利用できる」が男性（47.3%）、女性（38.9%）で、男性は前回調査から大きく増加 年齢別：「利用できる」は40歳代（68.6%）が最も高い。上の年齢で割合が前回調査から大きく増加 居住地域別：「利用できる」は中流域（46.1%）が最も高く、前回調査からも大きく増加</p>

4-4. 居留意思と生活の満足度

<p>居住地域と生活の満足度（問13）</p> <p>全体：「そう思っている」が（85.4%） 性別：「そう思っている」が男性（86.6%）、女性（84.3%） 年齢別：「そう思っている」は上の年齢ほど高い。60歳代（92%）は前回調査より増加するが、他の年齢は減少、特に20歳代（52.6%）は大きく減少 居住地域別：「そう思っている」は中流域（87.9%）が最も高い</p>
<p>現在の居住地域への満足度（問14）※『満足率』（「満足している」＋「まあ満足している」）で比較</p> <p>全体：『満足率』が（67.5%）で、前回調査より増加 性別：『満足率』が男性（66.6%）、女性（68.3%） 年齢別：『満足率』は20歳代（65%）が最も高い。その他の年齢は上になるほど『満足率』が高い 居住地域別：『満足率』は下流域（70.1%）、中流域（67.1%）、上流域（59.2%）の順に高い</p>
<p>生活の満足度（問15）※『満足率』（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）で比較</p> <p>全体：【『満足率』が高い項目…上位3件】 ①「まわりに親しめる自然があること」（76.7%） ②「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」（43.5%） ③「適切な診療や治療が受けられること」（41.2%） 【『満足率』が低い項目…下位3件】 (1)「収入が年々確実に増えること」（3.8%） (2)「能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」（7.1%） (3)「市や町の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること」（9.7%）</p> <p>前回調査と比較すると、22項目中16項目の『満足率』が増加している</p> <p>性別：男女とも『満足率』が高い上位2項目は全体の順位と同じだが、3番目に高い項目は、男性は「適切な診療や治療が受けられること」（43.1%）、女性は「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」（39.8%）</p> <p>年齢別：60歳以上の『満足率』が、22項目中16項目で他の年齢と比べて最も高く、特に医療に関する『満足率』が高くなっている</p> <p>居住地域別：上流域の「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」の『満足率』（27.5%）は、他の地域より低い。一方で「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」（54.9%）、「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」（53.6%）などの『満足率』は他の地域より高い 中流域の「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」（28.2%）などの『満足率』は、他の地域より低い。一方で「失業の不安がなく働けること」（21.6%）などの『満足率』は、他の地域より高い 下流域の「保育所、幼稚園が充実していること」（33.7%）、「道路がよく整備されていること」（16.1%）などの『満足率』は、他の地域より低い。一方で、「適切な診療や治療が受けられること」（45.4%）は他の地域より高い</p>

III. 分析結果

Ⅲ. 分析結果

1. 四万十川との関わり

1-1. 川に出かけたこと

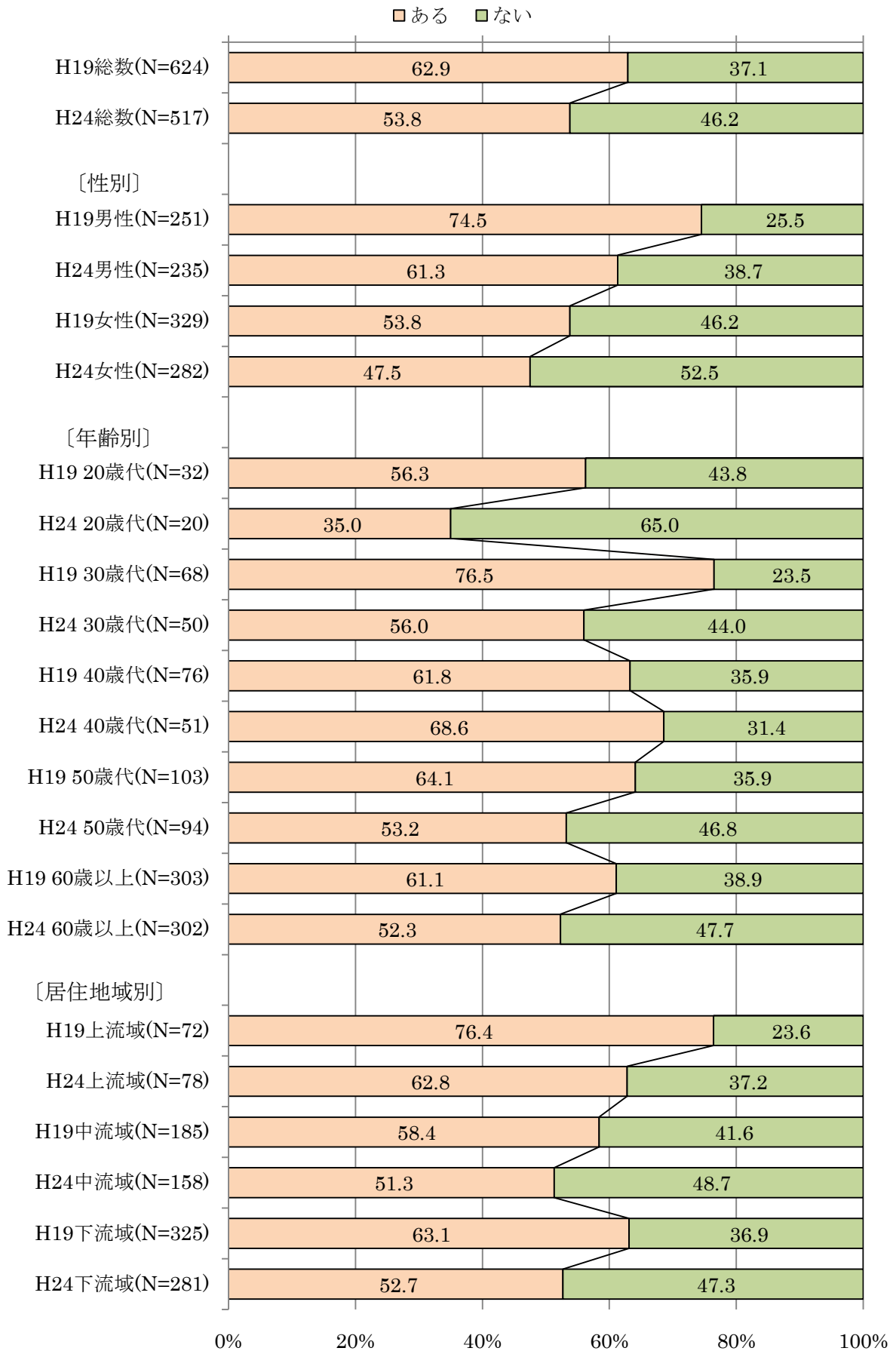
この1年間に仕事以外で川に出かけたことがあるかについて聞いたところ、出かけたことが「ある」と答えた人の割合は53.8%であり、平成19年度実施の前回調査（以降、『前回調査』または『前回』と表記）の62.9%と比較すると、割合は9.1ポイント減少している。

性別で見ると、出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、男性は61.3%、女性は47.5%となっており、いずれも前回調査より減少（男性は13.2ポイント、女性は6.3ポイントのいずれも減少）している。また、前回と同様に、男性の方が女性よりも川に出かける人の割合が高い。

年齢別で見ると、40歳代で「ある」と答えた人の割合が68.6%と、他の年代と比較して川に出かける人の割合が高くなっている。また、20歳代で「ある」と答えた人の割合は35%と、他の年代と比較しても特に低くなっていることが注目される。30歳代の「ある」と答えた人の割合は、前回調査では76.5%であったのに対し56%となっており、20.5ポイントと大きく割合を下げているのも特徴である。

居住地別で見ると、いずれの地域でも「ある」と答えた人の割合は5~6割程度であるが、中流域が51.3%と前回調査の58.4%と同様に最も低い割合となっている。また、上流域では前回は76.4%であったのに対し62.8%と、13.6ポイント減少している。

図-1 この1年間で仕事以外で川に出かけたことがあるか



1-2. 出かけた頻度

この1年間に川に出かけたことが「ある」と答えた人にその頻度を聞いたところ、回答者の6.5%が「毎日、ほぼ毎日」、13%が「週1~2回くらい」、24.5%が「月1~2回くらい」と答えており、回答者の44%が「月1~2回くらい」以上は川に出かけている。この結果を前回調査と比較すると、「月1~2回くらい」以上の割合は前回が43%であり大きな変化は見られないが、「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は前回調査が3%なのに対し今回は6.5%と微増している。

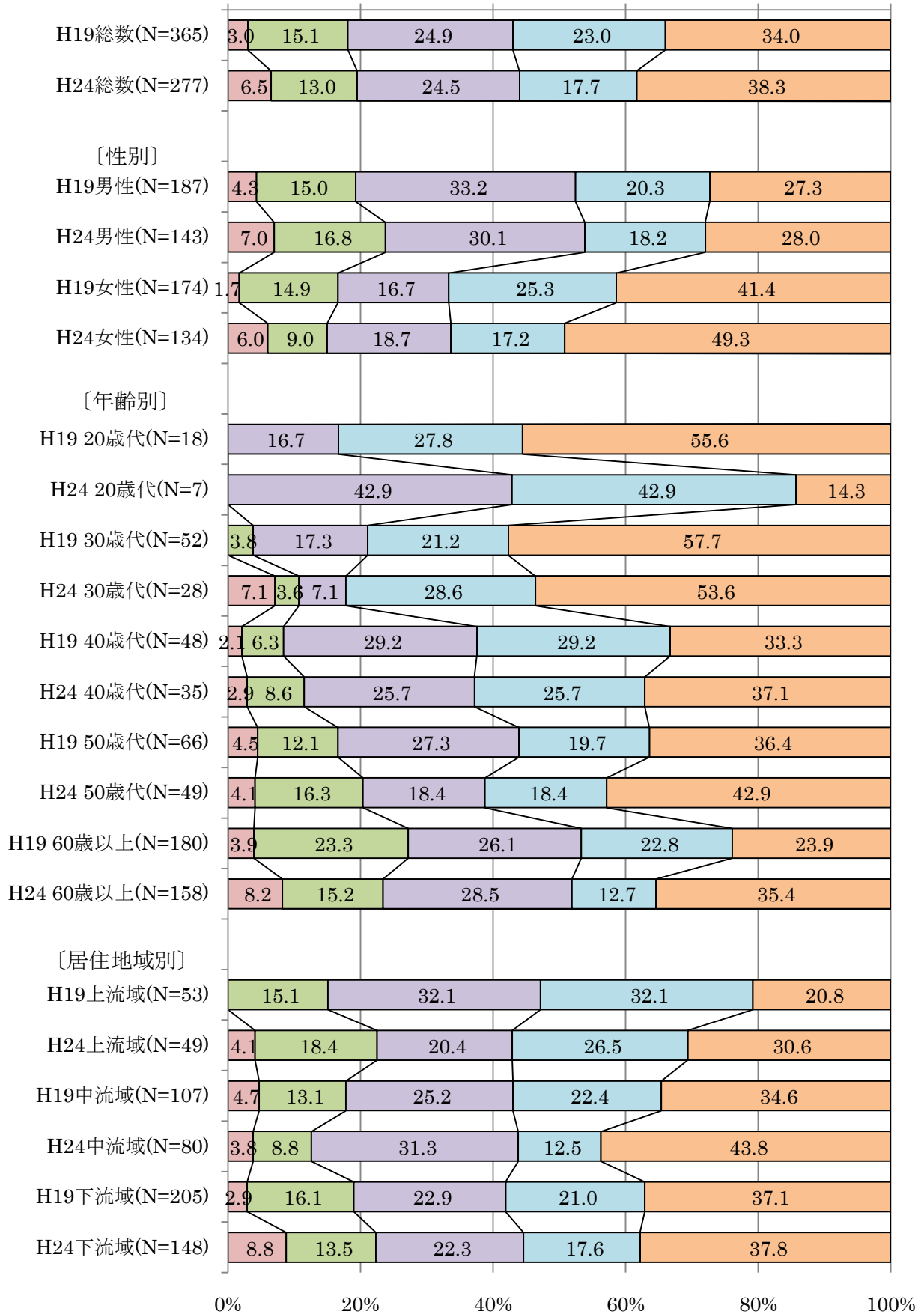
性別で見ると、「月1~2回くらい」以上と答えた人の割合は男性が53.9%であるのに対し女性が33.7%と、男性の方が川に行く頻度が20.2ポイントと大きく上回っている。前回調査と比較すると、「月1~2回くらい」以上川にでかける人の割合は男女ともあまり変化は見られないが、「毎日、ほぼ毎日」は男性が7.0%（前回4.3%）、女性が6.0%（前回1.7%）と微増している。また、「年1~2回くらい」の割合は、女性では前回が41.4%に対し今回は49.3%と、7.9ポイント増加しているのも特徴である。

年齢別に見ると、「月1~2回くらい」以上と答えた人の割合は、60歳代以上が51.9%で最も高く、半数を超えるのはこの年代のみとなっている。また、20歳代を除くと、上の年代ほど「月1~2回くらい」以上川に出かける人の割合が高くなる傾向にある。前回調査と比較すると、「月1~2回くらい」の20歳代の割合が前は16.7%であったのに対し今回は42.9%と、大きく増加しており、30歳代においても前回では0%であった「毎日、ほぼ毎日」の割合が7.1%と増加しているのも注目される。また、「年1~2回くらい」の60歳以上での割合が、前回の23.9%に対し今回は35.4%と、11.5ポイント増加しているのも特徴である。

居住地別に見ると、「月1~2回くらい」以上と答えた人の割合は前回調査では上流域が最も高くなっていたが、今回は下流域が44.6%と最も高くなっているものの居住地別であり差が見られない。一方で、「毎日、ほぼ毎日」の割合は下流域が8.8%で最も高く、「週1~2回くらい」の割合は上流域が18.4%で最も高くなっており、居住地によって川にでかける頻度には特徴が見られる。また、前回と比較すると、「年1~2回くらい」と答えた人の割合はいずれの居住地でも増加しているのが注目される。

図-2 川に出かけた頻度

□毎日、ほぼ毎日 □週1～2回くらい □月1～2回くらい □2～3ヶ月に1回くらい □年1～2回くらい



1-3. 誰と出かけたか

この1年間に仕事以外で川に出かけたことが「ある」と答えた人に、誰と出かけたことがあるかについて聞いたところ、「ひとり」の比率が47.8%であり前回調査と同様に最も高く、その比率も前回の41.6%から6.2ポイント増加している。次いで「友人、知人」が36.2%、「家族（小学生以下の子供を含む）」が31.5%の順で高くなっている。また、前回と比較すると、「ひとり」「その他」以外の比率がいずれも減少しているのが特徴である。

性別で見ると、男性では「ひとり」と答えた人の割合が59.4%と最も高く、前回調査の比率53.2%と比較しても6.2ポイント増加している。その一方で、「家族（小学生以下の子供を含む）」の比率は前回は34.4%に対し今回は28%と6.4ポイント減少しているのが特徴である。女性では、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「ひとり」がいずれも35.3%で最も高く、次いで「友人、知人」が34.6%となっている。前回と比較すると「家族（小学生以下の子供を含む）」が前回の42.0%から6.7ポイントの減少、逆に「ひとり」は前回から4.8ポイント増加しているのが注目される。「親類」の比率は前回の14.9%から今回は6.8%と8.1ポイント減少している。

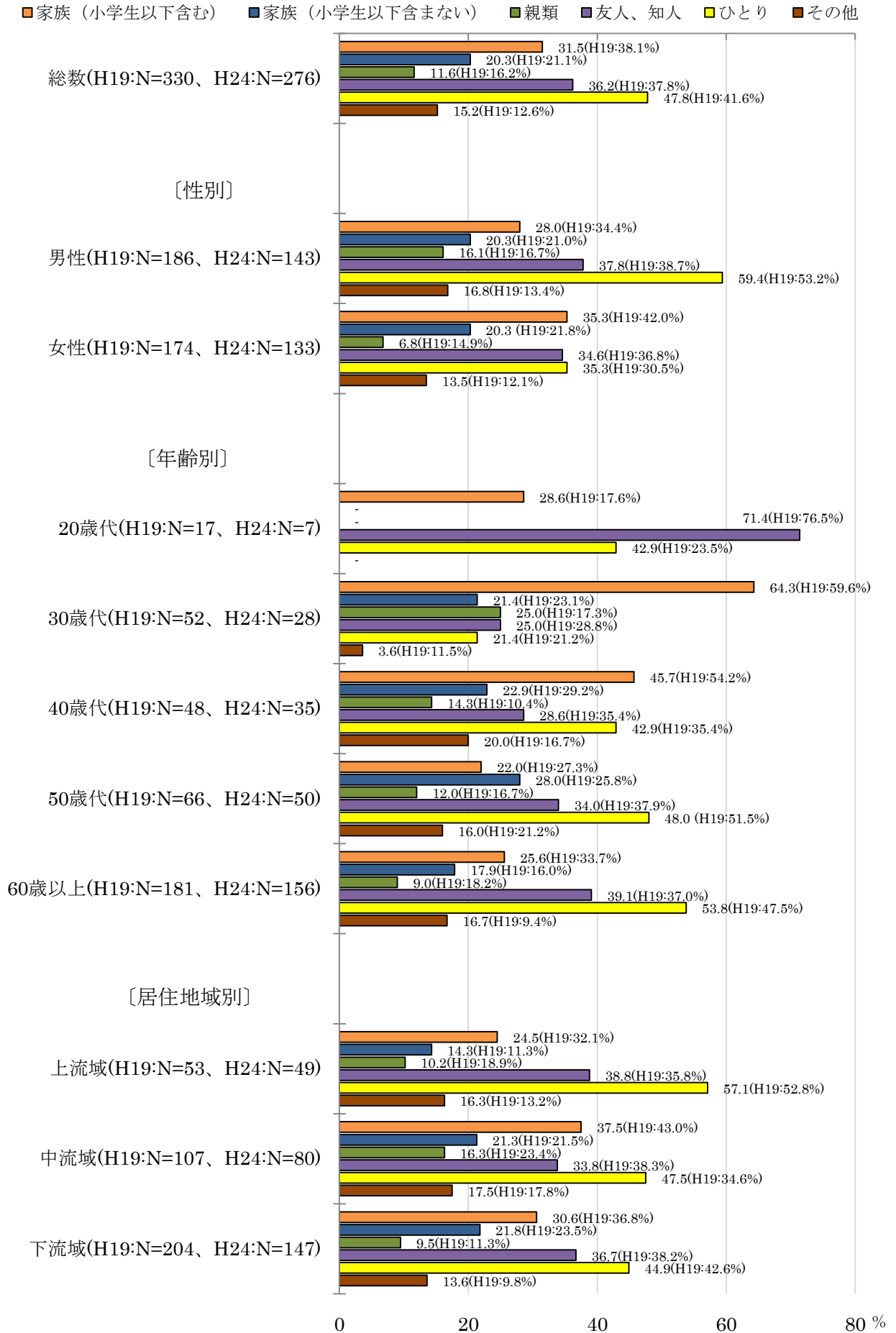
年齢別に見ると、「家族（小学生以下の子供を含む）」の比率が最も高いのは30歳代で64.3%、40歳代で45.7%となっており、その比率が特に高い30歳代は前回調査と比較しても4.7ポイント増加している。また、40歳代では前回の54.2%から8.5ポイント減少している一方で、「ひとり」の比率が前回の35.4%から7.5ポイント増加の42.9%と、「ひとり」の比率が高くなっているのが注目される。

「ひとり」と答えた人の比率については、50歳代で48%、60歳以上で53.8%と最も高い比率を示している。また、その比率を前回調査と比較すると、50歳代が51.5%から3.5ポイントと減少したのに対し、60歳以上では47.5%から6.3ポイント増加しているのも特徴といえる。また、これらの年代では「家族（小学生以下の子供を含む）」の比率が50歳代で22.0%（前回の27.3%から5.3ポイントの減少）、60歳以上で25.6%（前回の33.7%から8.1ポイント減少）といずれも減少している。

「友人、知人」と答えた人の比率は20歳代が71.4%と最も高くなっているが、前回調査と比較すると76.5%から5.1ポイント減少している。一方で「ひとり」の比率が前回の23.5%から42.9%と、19.4ポイントの大幅増となっている。

居住地別に見ると、いずれの地域でも「ひとり」の比率が最も高い（上流域57.1%、中流域47.5%、下流域44.9%）が、次いで高い比率となっているのは「友人、知人」は上流域で38.8%、下流域で36.7%、「家族（小学生以下の子供を含む）」は中流域で37.5%となっており、居住地によって高い項目の順位には差がみられる。また、前回調査と比較すると、「ひとり」の比率は上流域が前回の52.8%から4.3ポイント増加、中流域が前回の34.6%から12.9ポイント増加、下流域が前回の42.6%から2.3ポイントの増加と、いずれも増加しているのが見てとれる。

図-3 誰とでかけたか



1-4. 誰と何をしたか

この1年間に仕事以外で川に出かけたことが「ある」と答えた人に、川で「誰と何をしたか」について聞いた結果を、性別、年齢別、居住地別に整理、分析を行うことにする。

まずは性別から分析を行う。

【男性について】

「誰とでかけたか」の質問には前回調査と同じく「ひとり」と答えた人が一番多かったが、「ひとり」で行なったことについては、前回は「釣り、魚とり」をした人の比率が52%で最も高かったのに対し、今回は「散歩、ジョギング、散策」が50.6%で最も高く、次いで「釣り、魚とり」が31.8%、「清掃活動などのボランティア活動」が12.9%の順で高い。

また、「家族（小学生以下の子供を含む）」と行なったことについては、「水泳、水遊び」が60.0%、「釣り、魚とり」が50%と比較的高くなっている。特に、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「釣り、魚とり」に行った人の比率は、昨年が37.5%であったのに対し12.5ポイントと大きく増加しているのが注目される。

「釣り、魚とり」は、「親類」と行った人が47.8%、「友人、知人」と行った人が40.7%と比較的高い比率を示しているのも特徴である。

全体的にみると、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」に行った人の比率が60%と最も高い比率を示していることがわかる。

表-1 誰と何をしたか（男性）

(M. A.)

男性		散歩、ジョギング、散策	野草摘み（花摘み、山菜採りなど）	水泳、水遊び	釣り、魚とり	ボート、カヌーなど	キャンプ、バーベキュー	清掃活動などのボランティア活動	その他	合計（M・T）
		度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)
家族（小学生以下含む） (N=40)	度数(人)	11	3	24	20	1	6	4	1	70
	割合(%)	27.5	7.5	60.0	50.0	2.5	15.0	10.0	2.5	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=29)	度数(人)	13	5	7	12	1	1	4	2	45
	割合(%)	44.8	17.2	24.1	41.4	3.4	3.4	13.8	6.9	100.0
親類(N=23)	度数(人)	4	2	7	11	2	2	1	1	30
	割合(%)	17.4	8.7	30.4	47.8	8.7	8.7	4.3	4.3	100.0
友人・知人(N=54)	度数(人)	9	2	8	22	2	10	15	2	70
	割合(%)	16.7	3.7	14.8	40.7	3.7	18.5	27.8	3.7	100.0
ひとり(N=85)	度数(人)	43	10	6	27	2	0	11	11	110
	割合(%)	50.6	11.8	7.1	31.8	2.4	0.0	12.9	12.9	100.0
その他(N=24)	度数(人)	2	0	3	0	0	0	17	4	26
	割合(%)	8.3	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	70.8	16.7	100.0

【女性について】

前回調査では、「誰とでかけたか」の質問に対して「家族（小学生以下の子供を含む）」と答えた人が一番多かったが、今回は「家族（小学生以下の子供を含む）」と「ひとり」が同数となっている。「家族（小学生以下の子供を含む）」と川で行なったことについて、その割合が最も高いのは「水泳、水遊び」の66%で、前回調査の64.8%に近い比率であり、次いで「散歩、ジョギング、散策」が23.4%となっている。また、「ひとり」で川で行なったことは「散歩、ジョギング、散策」の78.7%で、前回調査の62.7%から16ポイント増加している。

全体で見ると、女性で川に行った人は、「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」を行なう人の比率が78.7%で最も高く、続いて「家族（小学生以下の子供を含む）」で「水泳、水遊び」を行なう人が多いことが分かる。

表－2 誰と何をしたか（女性）

(M. A.)

女性		散歩、ジョギング、散策	野草摘み（花摘み、山菜採りなど）	水泳、水遊び	釣り、魚とり	ボート、カヌーなど	キャンプ、バーベキュー	清掃活動などのボランティア活動	その他	合計（M・T）
		度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)
家族（小学生以下含む） (N=47)	度数(人)	11	3	31	7	3	7	3	6	71
	割合(%)	23.4	6.4	66.0	14.9	6.4	14.9	6.4	12.8	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=27)	度数(人)	15	3	2	5	0	2	2	5	34
	割合(%)	55.6	11.1	7.4	18.5	0.0	7.4	7.4	18.5	100.0
親類 (N=9)	度数(人)	1	0	3	2	0	1	1	3	11
	割合(%)	11.1	0.0	33.3	22.2	0.0	11.1	11.1	33.3	100.0
友人・知人 (N=46)	度数(人)	15	11	4	6	2	5	11	7	61
	割合(%)	32.6	23.9	8.7	13.0	4.3	10.9	23.9	15.2	100.0
ひとり (N=47)	度数(人)	37	7	3	4	0	1	4	6	62
	割合(%)	78.7	14.9	6.4	8.5	0.0	2.1	8.5	12.8	100.0
その他 (N=18)	度数(人)	4	1	1	2	1	1	8	2	20
	割合(%)	22.2	5.6	5.6	11.1	5.6	5.6	44.4	11.1	100.0

次に、年齢別に分析を行う。

【20歳代について】

前回調査と同様に本調査においても、「誰とでかけたか」の質問に対して「友人、知人」と答えた人が一番多かった。その人と川で行なったことについて、その比率が最も高いのは「キャンプ、バーベキュー」で60%となっており、前回調査で84.6%と最も高かった「水泳、水遊び」は20%にとどまっている。

表-3 誰と何をしたか (20歳代)

(M. A.)

20歳代		散歩、ジョギング、散策	野草摘み（花摘み、山菜採りなど）	水泳、水遊び	釣り、魚とり	ボート、カヌーなど	キャンプ、バーベキュー	清掃活動などのボランティア活動	その他	合計（M・T）
家族（小学生以下含む） (N=2)	度数(人)	2	0	2	1	0	0	0	0	5
	割合(%)	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=0)	度数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
親類(N=0)	度数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
友人・知人(N=5)	度数(人)	1	0	1	1	0	3	0	0	6
	割合(%)	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	100.0
ひとり(N=3)	度数(人)	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	割合(%)	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
その他(N=0)	度数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【30歳代について】

前回調査と同様に本調査においても、「誰とでかけたか」の質問に対しては、「家族（小学生以下の子供を含む）」と答えた人が一番多かった。そして、その人と川で行なったことについて、その比率が最も高いのは「水泳、水遊び」で83.3%となっており、前回調査の77.4%から5.9ポイント増加している。次いで「釣り、魚とり」および「キャンプ、バーベキュー」が27.8%となり、前回調査とほぼ同じ順番となった。

また、「ひとり」で川で行なったことは「散歩、ジョギング、散策」の比率が83.3%で最も高く、前回調査の63.6%から19.7ポイント増加している。

全体で見ると、30歳代で川に行った人は、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」を、また「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」を行なう人が多いことが分かった。

表－4 誰と何をしたか（30歳代）

(M. A.)

30歳代		散歩、ジョギング、散策	野草摘み（花摘み、山菜採りなど）	水泳、水遊び	釣り、魚とり	ボート、カヌーなど	キャンプ、バーベキュー	清掃活動などのボランティア活動	その他	合計（M・T）
		家族（小学生以下含む） (N=18)	度数(人)	4	0	15	5	2	5	0
	割合(%)	22.2	0.0	83.3	27.8	11.1	27.8	0.0	11.1	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=6)	度数(人)	4	1	2	1	0	0	1	1	10
	割合(%)	66.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	100.0
親類(N=7)	度数(人)	0	0	4	2	0	1	0	1	8
	割合(%)	0.0	0.0	57.1	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	100.0
友人・知人(N=7)	度数(人)	0	1	3	1	0	2	0	2	9
	割合(%)	0.0	14.3	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	28.6	100.0
ひとり(N=6)	度数(人)	5	1	1	1	0	1	1	0	10
	割合(%)	83.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	100.0
その他(N=1)	度数(人)	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	割合(%)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【40歳代について】

前回調査と同様に本調査においても、「誰とでかけたか」の質問に対しては、「家族（小学生以下の子供を含む）」と答えた人が一番多かった。そして、その人と川で行なったことについて、その比率が最も高いのは「水泳、水遊び」で68.8%となっており、前回調査の69.2%とほぼ同じ比率となっている。次いで「釣り、魚とり」が56.3%、「キャンプ、バーベキュー」が31.3%の順で高い比率を示している。

全体で見ると、40歳代で川に行った人は、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」を行なう人の比率が一番多く、続いて「家族（小学生以下の子供を含まない）」と「散歩、ジョギング、散策」を行なう人が62.5%と比率が高いことが分かった。

表－5 誰と何をしたか（40歳代）

(M. A.)

40歳代		散歩、 ジョギング、 散策	野草摘み（花摘み、 山菜採りなど）	水泳、 水遊び	釣り、 魚とり	ボート、 カヌーなど	キャンプ、 バーベキュー	清掃活動などのボラン ティア活動	その他	合計（M・T）
家族（小学生以下含む） (N=16)	度数(人)	3	1	11	9	1	5	2	2	34
	割合(%)	18.8	6.3	68.8	56.3	6.3	31.3	12.5	12.5	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=8)	度数(人)	5	1	4	3	0	1	1	0	15
	割合(%)	62.5	12.5	50.0	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	100.0
親類(N=5)	度数(人)	0	0	2	1	2	2	0	0	7
	割合(%)	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	100.0
友人・知人(N=10)	度数(人)	1	1	3	6	0	2	2	1	16
	割合(%)	10.0	10.0	30.0	60.0	0.0	20.0	20.0	10.0	100.0
ひとり(N=15)	度数(人)	7	2	2	6	1	0	1	2	21
	割合(%)	46.7	13.3	13.3	40.0	6.7	0.0	6.7	13.3	100.0
その他(N=7)	度数(人)	2	0	1	1	1	1	2	0	8
	割合(%)	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	100.0

【50歳代について】

前回調査と同様に本調査においても、「誰とでかけたか」の質問に対しては、「ひとり」と答えた人が一番多かった。そして、川で行なったことについてその比率が最も高いのは、「散歩、ジョギング、散策」で58.3%となっており、前回調査の47.1%から11.2ポイント増加している。次いで、「釣り、魚とり」が29.2%と高い比率になっている。

全体で見ると、50歳代で川に行った人は、「その他（の人）」と「清掃活動などのボランティア活動」を行なう人の比率が87.5%で最も高く、次いで「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」を行う人が63.6%、「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」に行く人の比率が58.3%の順で高くなっていることが分かった。

表－6 誰と何をしたか（50歳代）

(M. A.)

50歳代		散歩、 ジョギング、 散策	野草摘み（花摘み、 山菜採りなど）	水泳、 水遊び	釣り、 魚とり	ボート、 カヌーなど	キャンプ、 バーベキュー	清掃活動などの ボランティア活動	その他	合計 (M・T)
家族（小学生以下含む） (N=11)	度数(人)	2	0	7	3	1	1	1	1	16
	割合(%)	18.2	0.0	63.6	27.3	9.1	9.1	9.1	9.1	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=14)	度数(人)	7	1	1	3	0	0	0	4	16
	割合(%)	50.0	7.1	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0	28.6	100.0
親類(N=6)	度数(人)	2	1	1	1	0	0	1	1	7
	割合(%)	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	100.0
友人・知人(N=17)	度数(人)	3	1	2	4	2	5	2	1	20
	割合(%)	17.6	5.9	11.8	23.5	11.8	29.4	11.8	5.9	100.0
ひとり(N=24)	度数(人)	14	2	0	7	0	0	3	0	26
	割合(%)	58.3	8.3	0.0	29.2	0.0	0.0	12.5	0.0	100.0
その他(N=8)	度数(人)	0	0	0	0	0	0	7	1	8
	割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	12.5	100.0

【60歳以上について】

前回調査と同様に本調査においても、「誰とでかけたか」の質問に対しては、「ひとり」と答えた人が一番多かった。そして、川で行なったことについてその比率が最も高いのは、「散歩、ジョギング、散策」で61.9%となっており、前回調査の53.5%から8.4ポイント増加している。次いで「釣り、魚とり」が20.2%の順で高くなっている。

全体で見ると、60歳以上の世代では、「親類」と「釣り、魚とり」を行なう人の比率が64.3%で一番高く、続いて「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」をする人、「その他（の人）」と「清掃活動などのボランティア活動」を行なう人の比率が高いことが分かった。

表-7 誰と何をしたか（60歳以上）

(M. A.)

60歳以上		散歩、ジョギング、散策	野草摘み（花摘み、山菜採りなど）	水泳、水遊び	釣り、魚とり	ボート、カヌーなど	キャンプ、バーベキュー	清掃活動などのボランティア活動	その他	合計（M・T）
		家族（小学生以下含む） (N=40)	度数(人)	11	5	20	9	0	2	4
	割合(%)	27.5	12.5	50.0	22.5	0.0	5.0	10.0	5.0	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=28)	度数(人)	12	5	2	10	1	2	4	2	38
	割合(%)	42.9	17.9	7.1	35.7	3.6	7.1	14.3	7.1	100.0
親類(N=14)	度数(人)	3	1	3	9	0	0	1	2	19
	割合(%)	21.4	7.1	21.4	64.3	0.0	0.0	7.1	14.3	100.0
友人・知人(N=61)	度数(人)	19	10	3	16	2	3	22	5	80
	割合(%)	31.1	16.4	4.9	26.2	3.3	4.9	36.1	8.2	100.0
ひとり(N=84)	度数(人)	52	12	6	17	1	0	10	14	112
	割合(%)	61.9	14.3	7.1	20.2	1.2	0.0	11.9	16.7	100.0
その他(N=26)	度数(人)	4	1	2	1	0	0	16	5	29
	割合(%)	15.4	3.8	7.7	3.8	0.0	0.0	61.5	19.2	100.0

次に、居住地別に分析を行う。

【上流域について】

前回調査と同様に本調査においても、「誰とでかけたか」の質問に対して「ひとり」と答えた人が一番多かった。そして、川で行なったことについて、その比率が最も高いのは「散歩、ジョギング、散策」で50%となっており、前回調査の44.4%から5.6ポイント増加している。前回、82.4%と高い比率だった「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」に行く人の比率は今回は66.7%で、15.7ポイント減少している。

全体で見ると、「その他（の人）」と「清掃活動などのボランティア活動」へ行く人の比率が75%で最も高く、次いで「家族（小学生以下の子供を含まない）」と「釣り、魚とり」が71.4%、「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」が66.7%の順に高い。

表－8 誰と何をしたか（上流域）

(M. A.)

上流域		散歩、ジョギング、散策	野草摘み（花摘み、山菜採りなど）	水泳、水遊び	釣り、魚とり	ボート、カヌーなど	キャンプ、バーベキュー	清掃活動などのボランティア活動	その他	合計（M・T）
家族（小学生以下含む） (N=12)	度数(人)	2	0	8	2	0	1	2	1	16
	割合(%)	16.7	0.0	66.7	16.7	0.0	8.3	16.7	8.3	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=7)	度数(人)	2	1	1	5	0	0	1	0	10
	割合(%)	28.6	14.3	14.3	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0	100.0
親類(N=5)	度数(人)	0	0	2	3	0	0	1	0	6
	割合(%)	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	100.0
友人・知人(N=19)	度数(人)	1	2	3	6	0	2	8	1	23
	割合(%)	5.3	10.5	15.8	31.6	0.0	10.5	42.1	5.3	100.0
ひとり(N=28)	度数(人)	14	7	3	4	0	0	4	5	37
	割合(%)	50.0	25.0	10.7	14.3	0.0	0.0	14.3	17.9	100.0
その他(N=8)	度数(人)	0	0	0	1	0	0	6	1	8
	割合(%)	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	75.0	12.5	100.0

【中流域について】

前回調査では「誰とでかけたか」の質問に対して「家族（小学生以下の子供を含む）」と答えた人が最も多かったが、今回は「ひとり」が最も多く、何をしたかについては「散歩、ジョギング、散策」の比率が52.6%で最も高いという結果になった。前回調査で68.9%と比率の高かった「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」に行く人の比率は、今回は56.7%で12.2ポイント減少している。

全体で見ると、中流域では「その他（の人）」と「清掃活動などのボランティア活動」に行く人の比率が57.1%で最も高く、次いで「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」に行く人の比率が高いことがわかった。

表－9 誰と何をしたか（中流域）

(M. A.)

中流域		散歩、 ジョギング、 散策	野草摘み（花摘み、 山菜採りなど）	水泳、 水遊び	釣り、 魚とり	ボート、 カヌーなど	キャンプ、 バーベキュー	清掃活動などの ボランティア活動	その他	合計 (M・T)
家族（小学生以下含む） (N=30)	度数(人)	6	3	17	9	1	5	3	3	47
	割合(%)	20.0	10.0	56.7	30.0	3.3	16.7	10.0	10.0	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=17)	度数(人)	5	2	3	7	0	2	3	4	26
	割合(%)	29.4	11.8	17.6	41.2	0.0	11.8	17.6	23.5	100.0
親類(N=13)	度数(人)	4	1	2	6	2	2	0	1	18
	割合(%)	30.8	7.7	15.4	46.2	15.4	15.4	0.0	7.7	100.0
友人・知人(N=27)	度数(人)	5	4	1	9	3	3	7	5	37
	割合(%)	18.5	14.8	3.7	33.3	11.1	11.1	25.9	18.5	100.0
ひとり(N=38)	度数(人)	20	2	3	12	2	0	3	6	48
	割合(%)	52.6	5.3	7.9	31.6	5.3	0.0	7.9	15.8	100.0
その他(N=14)	度数(人)	2	0	2	0	0	0	8	3	15
	割合(%)	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	57.1	21.4	100.0

【下流域について】

前回調査では「誰とでかけたか」の質問に対して「ひとり」と答えた人が最も多かったが、今回は「家族（小学生以下の子供を含む）」が最も多く、何をしたかについては「水泳、水遊び」の比率が66.7%で、前回調査の63.5%から3.2ポイント増加した。また、「ひとり」で行なったことは「散歩、ジョギング、散策」の比率が69.7%で最も高く、前回調査の54.7%から15ポイントの増加となった。

全体で見ると、「ひとり」で「散歩、ジョギング、散策」をした人の比率が最も高く、次いで「家族（小学生以下の子供を含む）」と「水泳、水遊び」の66.7%が高い比率となっている。

表-10 誰と何をしたか（下流域）

(M. A.)

下流域		散歩、ジョギング、散策	野草摘み（花摘み、山菜採りなど）	水泳、水遊び	釣り、魚とり	ボート、カヌーなど	キャンプ、バーベキュー	清掃活動などのボランティア活動	その他	合計（M・T）
		度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)
家族（小学生以下含む） (N=100)	度数(人)	14	3	30	16	3	7	2	3	78
	割合(%)	31.1	6.7	66.7	35.6	6.7	15.6	4.4	6.7	100.0
家族（小学生以下含まない） (N=32)	度数(人)	21	5	5	5	1	1	2	3	43
	割合(%)	65.6	15.6	15.6	15.6	3.1	3.1	6.3	9.4	100.0
親類(N=14)	度数(人)	1	1	6	4	0	1	1	3	17
	割合(%)	7.1	7.1	42.9	28.6	0.0	7.1	7.1	21.4	100.0
友人・知人(N=54)	度数(人)	18	7	8	13	1	10	11	3	71
	割合(%)	33.3	13.0	14.8	24.1	1.9	18.5	20.4	5.6	100.0
ひとり(N=66)	度数(人)	46	8	3	15	0	1	8	6	87
	割合(%)	69.7	12.1	4.5	22.7	0.0	1.5	12.1	9.1	100.0
その他(N=20)	度数(人)	4	1	2	1	1	1	11	2	23
	割合(%)	20.0	5.0	10.0	5.0	5.0	5.0	55.0	10.0	100.0

2. 環境を守る行動や意欲

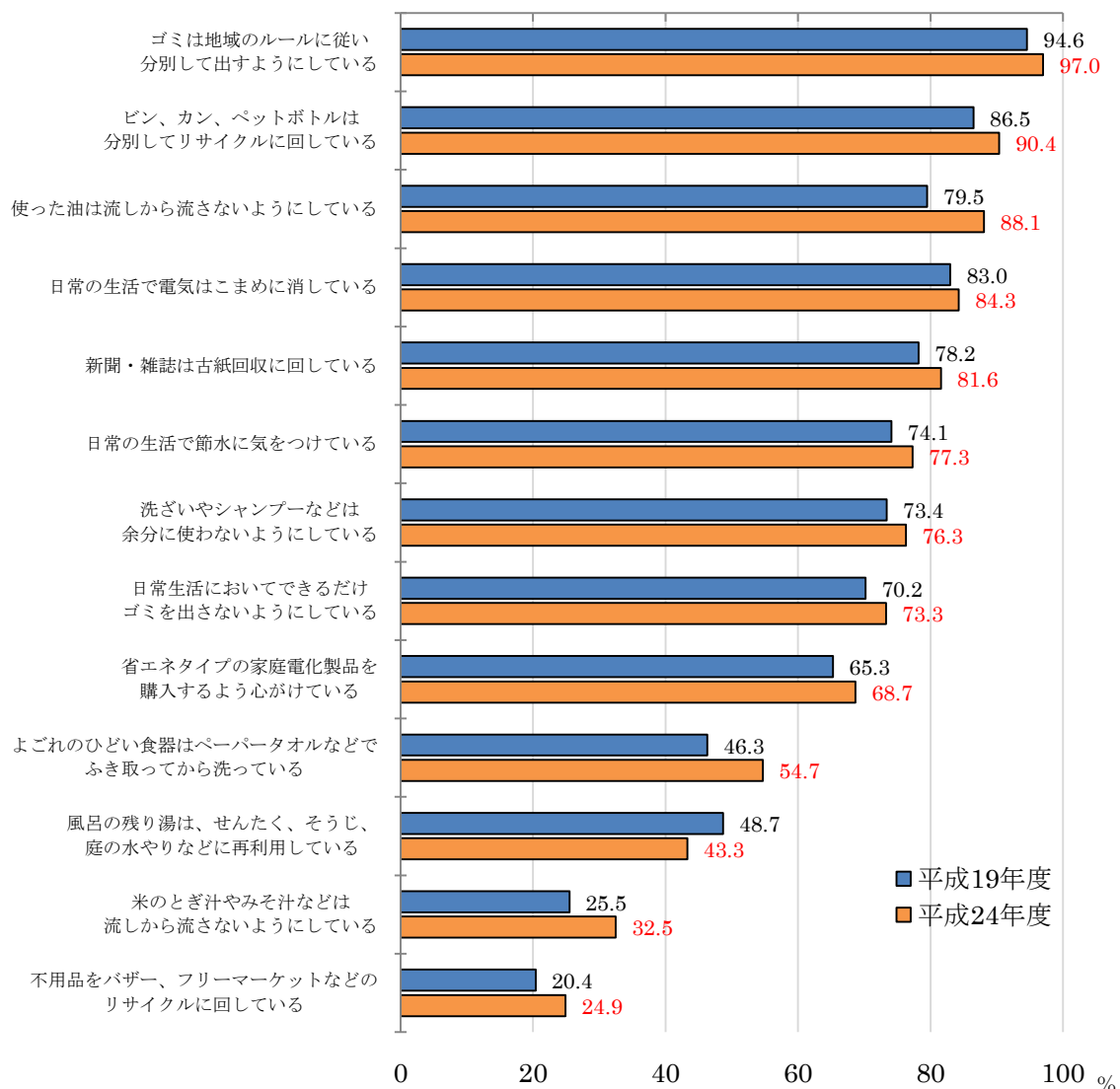
2-1. 環境を守る行動

環境を守るために日頃行っている行動について聞いたところ、最も実施率（回答の「いつも行っている」と「だいたい行っている」の割合を合わせた数値）が高い項目は、前回調査と同じ「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」の97%で、前回調査の94.6%から2.4ポイント増加している。次いで「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」が90.4%、「使った油は流しから流さないようにしている」が88.1%の順で高く、上位2項目は9割以上の人を実施していることがわかる。

逆に、実施率が低い項目を下位から順に挙げると、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」が24.9%、「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」が32.5%、「風呂の残り湯は、せんとく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」が43.3%となっており、最も実施率の低い「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」を実施している人は全体の4分の1程度にとどまっているのが実情である。

また、前回調査と比較すると、「風呂の残り湯は、せんとく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」を除く全ての項目において前回より実施率が増加していることが分かり、環境保護に対する意識は向上の傾向が見られると言えよう。

図-4 環境を守るための行動の実施率（全体） 前回との比較

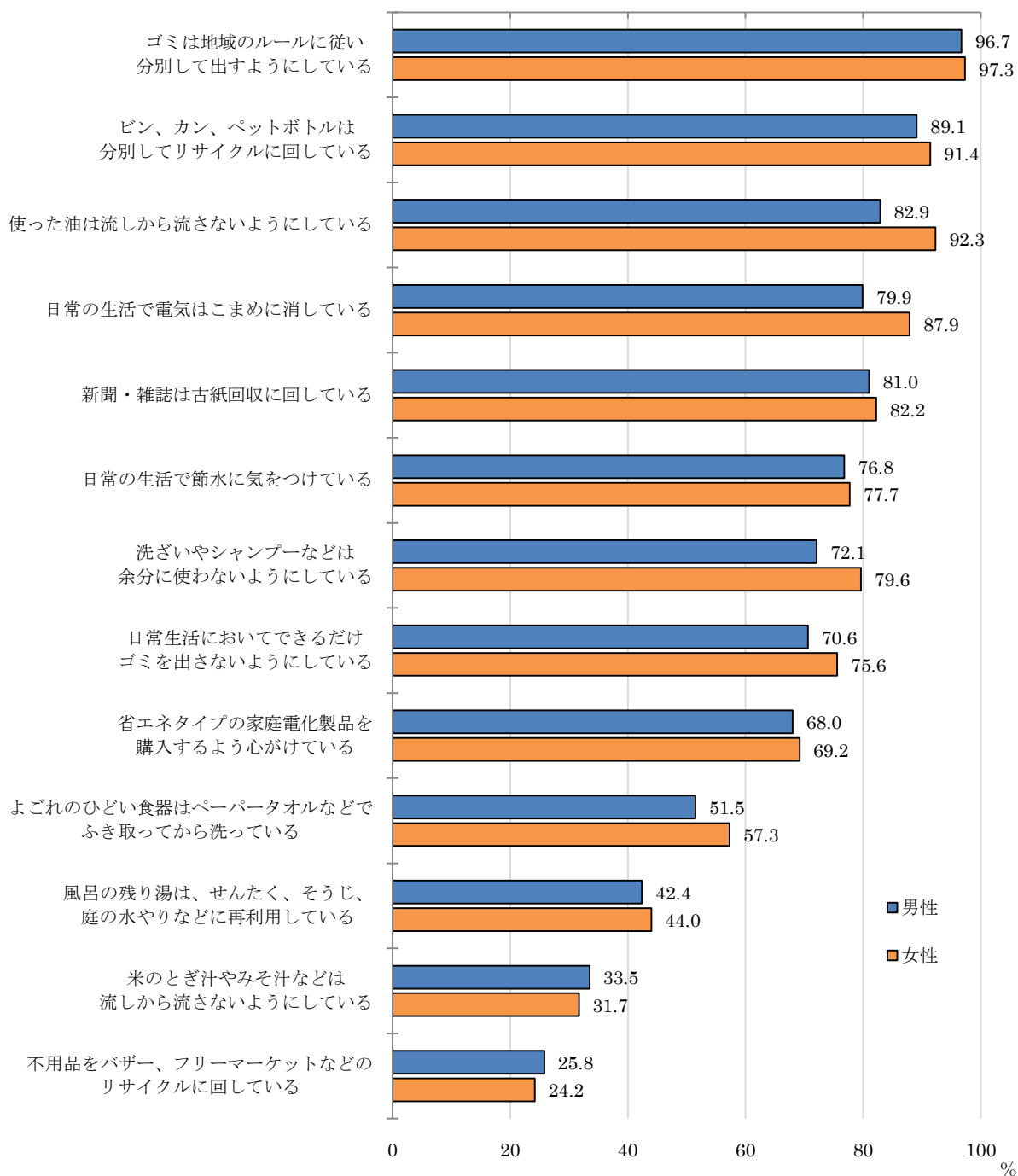


【性別】

前回調査では、女性の方が実施率の高い項目が多い傾向が見られたが、今回においてもその傾向は持続しており、男性の方が実施率の高い項目は2項目にとどまっている。

男女とも「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」が最も高く、男性は96.7%、女性は97.3%といずれも大多数の人が実施している。次に、男性は「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」が89.1%、女性は「使った油は流しから流さないようにしている」が92.3%で高く、男女で高い項目の順位には差がみられる。前回調査から上位の項目の順位にはあまり変化は見られない。

図－5 環境を守るための行動の実施率（性別）



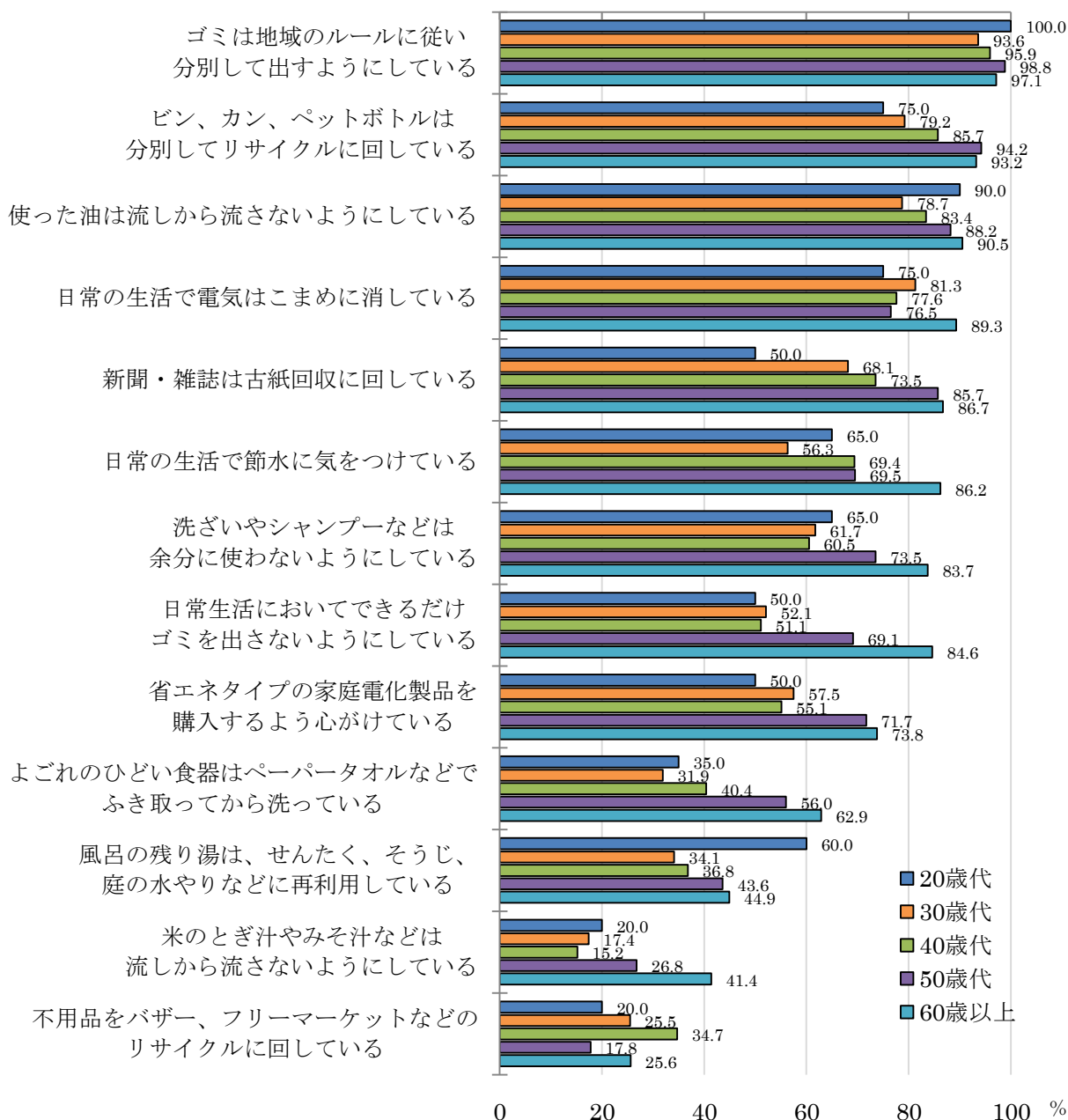
【年齢別】

前回調査と同じく、いくつかの項目で上の年齢ほど実施率が高くなる項目が見られ、「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」、「新聞・雑誌は古紙回収に回している」「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」などの項目でその特徴が顕著に表れている。特に「新聞・雑誌は古紙回収に…」、「日常生活においてできるだけゴミを…」においては、20歳代と60歳以上の間で実施率に30ポイント以上の差が開いている。

「よごれのひどい食器はペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」は各年齢とも前回調査から比率が増加しており、特に20歳代は前回の12.1%から35%へと22.9ポイント増加している。他にも「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」の20歳代、30歳代において、前回調査からの増加が見られる。

「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」は、40歳代の実施率が前回調査では16%だったのに対して34.7%と18.7ポイント増加している。

図ー6 環境を守るための行動の実施率（年齢別）



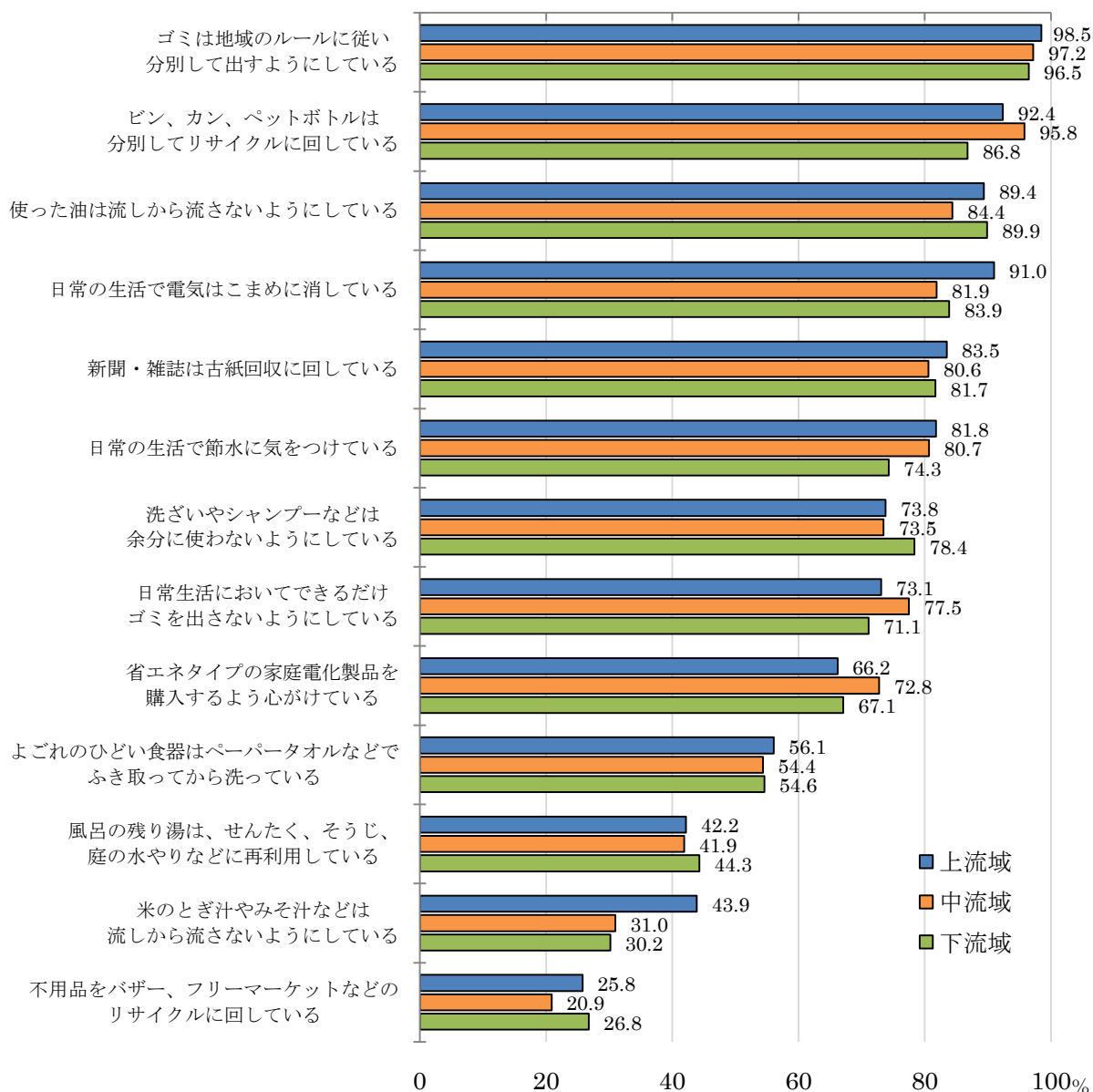
【居住地別】

上流域で他の地域よりも実施率が高い項目は「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」、「日常の生活で電気はこまめに消している」、「新聞、雑誌は古紙回収に回している」、「よごれのひどい食器はペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」、「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」で、特に「日常の生活で電気はこまめに消している」、「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」は他の地域より実施率が特に高いのが注目される。

中流域では、「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」、「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」、「省エネタイプの家庭電化製品を購入するよう心がけている」が他の地域よりも実施率が高い。他のゴミに関する項目も高い水準にあり、ゴミ分別に関する意識が高いことがうかがえる。

下流域では、「使った油は流しから流さないようにしている」、「洗ざいやシャンプーなどは余分に使わないようにしている」、「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」の実施率が他の地域よりも高い。

図－7 環境を守るための行動の実施率（居住地域別）



2-2. 家庭での水切り袋の設置

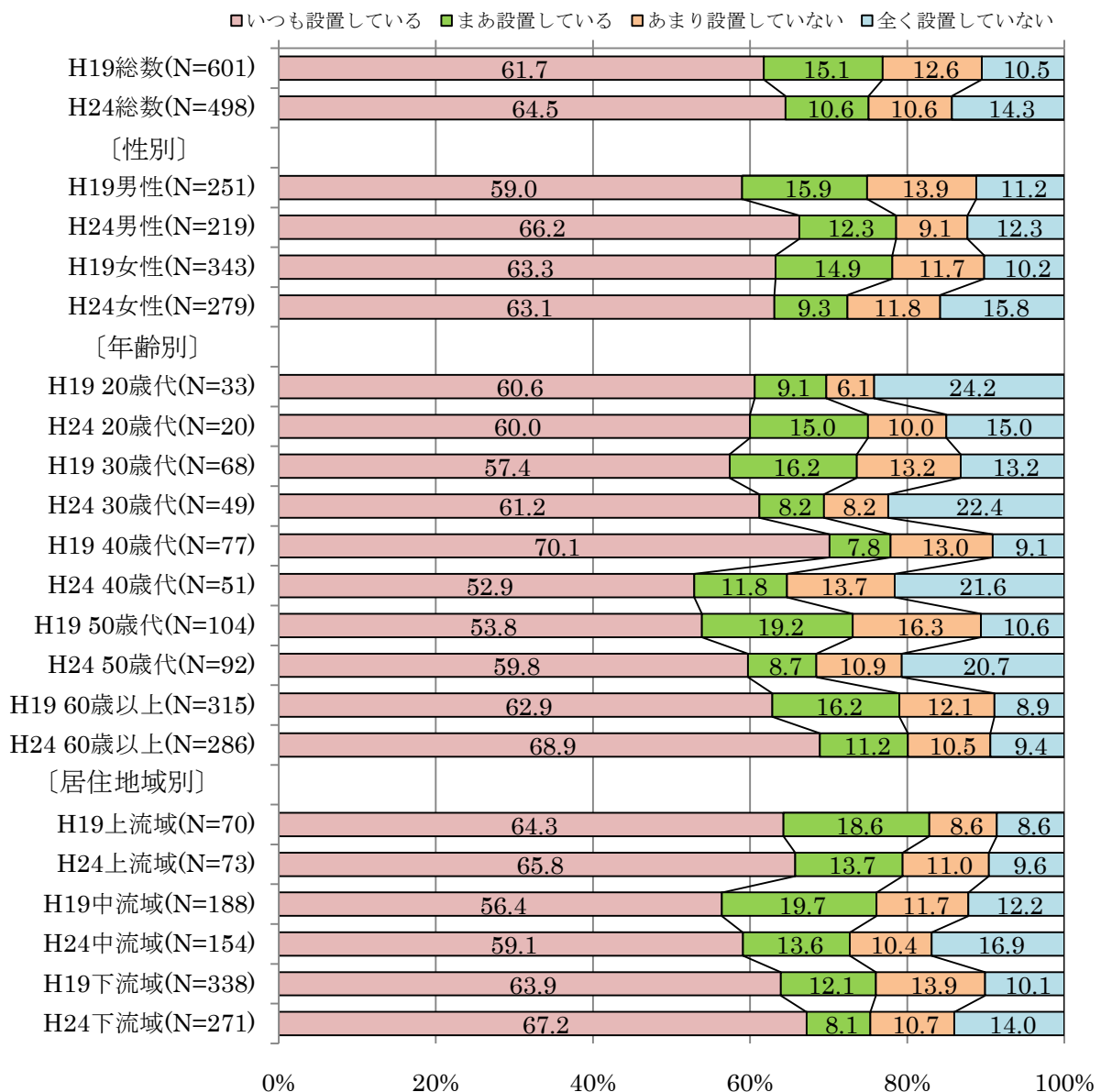
家庭で水切り袋などを設置しているかについて聞いたところ「いつも設置している」と答えた人の割合は前回調査の61.7%から64.5%へと2.8ポイント増加したが、「まあ設置している」は前回の15.1%から10.6%へと4.5ポイント減少した。また、「全く設置していない」は前回の10.5%から14.3%へと3.8ポイント増加しており、全体として設置している世帯が微減していることがわかる。

性別で見ると、男性の「いつも設置している」と答えた人は前回調査の59.0%から66.2%へと7.2ポイント増加しており、前は女性の方が「いつも設置している」の割合が高かったが今回は男性の方が高くなっている。

年齢別で見ると、「いつも設置している」と答えた人の割合は60歳以上が68.9%で最も高かった。前回調査で70.1%と最も高かった40歳代は今回は52.9%で、17.2ポイントと大きく減少した。また、「全く設置していない」の割合が前回の9.1%から21.6%へと12.9ポイント増加している。

居住地別で見ると、「いつも設置している」と答えた人の割合は、前回調査では上流域が64.3%で最も高かったが、今回は下流域が67.2%と最も高く、前回の63.9%からも3.3ポイント増加している。他の地域においても前回より割合が増加していることが見てとれる。

図-8 家庭での水切り袋の設置



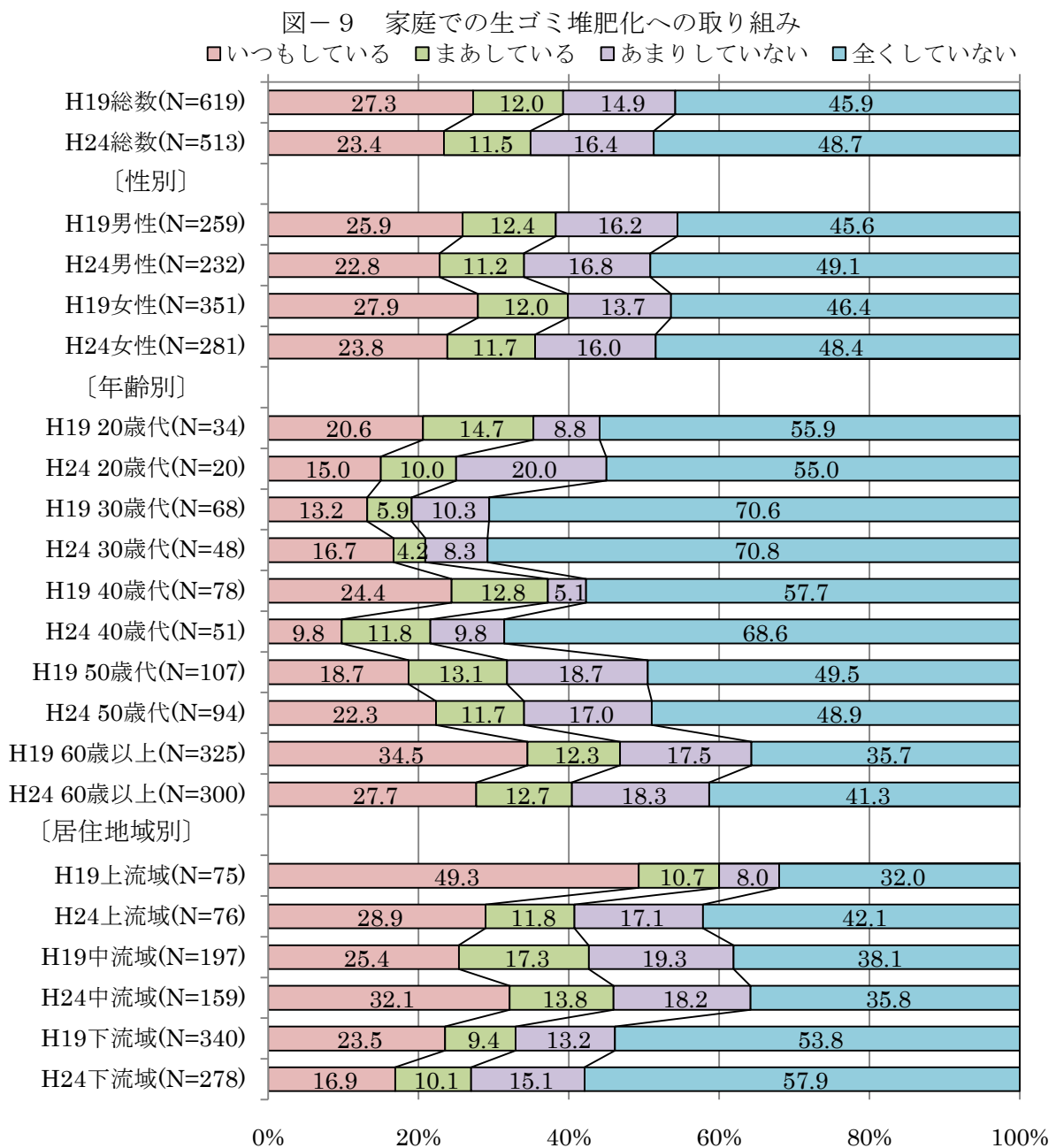
2-3. 家庭での生ゴミ堆肥化への取り組み

家庭での生ゴミ堆肥化への取り組みについて聞いたところ、「いつもしている」は前回調査の27.3%から23.4%へと3.9ポイントの減少、「まあしている」は前回の12.0%から11.5%へと0.5ポイント減少しており、取り組んでいる人の割合は下がっている。

性別で見た場合も、男女とも前回調査より取り組んでいる人の割合は下がっており、特に「いつもしている」と答えた人の割合は前回から3ポイント以上減少している。

年齢別で見ると、30歳代、50歳代を除く年齢で前回調査から「いつもしている」の割合が減少しており、特に40歳代は前回の24.4%から9.8%へ14.6ポイントと大きく減少しているのが注目される。30歳代の「いつもしている」と答えた人は前回の13.2%から16.7%へ3.2ポイント増加している。

居住地別で見ると、上流域の「いつもしている」と答えた人は、前回調査の49.3%から28.9%へ20.4ポイントと大きく割合を下げているのが特徴である。下流域も「いつもしている」の割合が下がっているが、中流域では前回の25.4%から32.1%へ6.7ポイント増加している。



2-4. 環境に関する活動への参加の有無

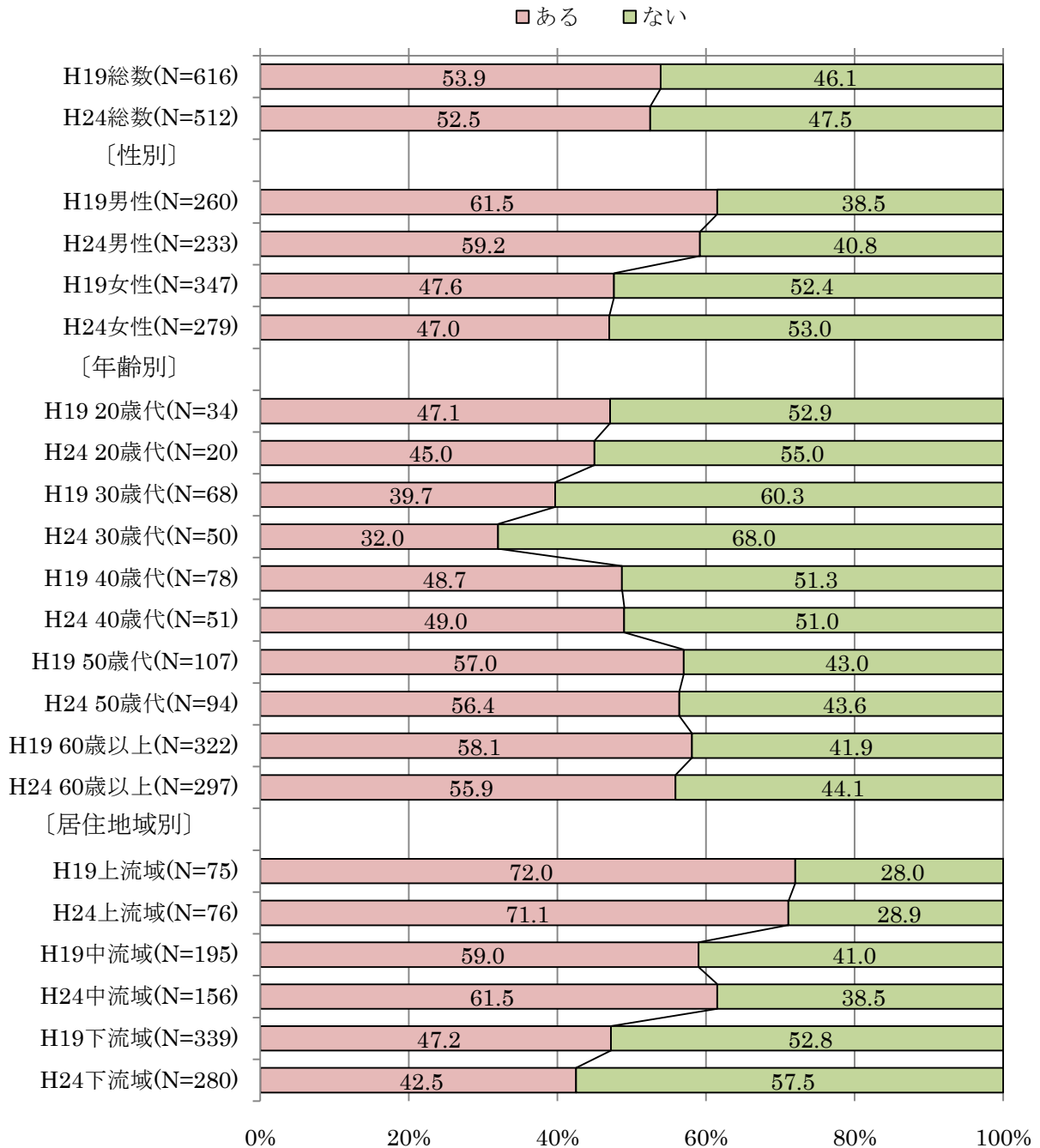
環境に関する活動への参加の有無について聞いたところ、「ある」と答えた人の割合は、前回調査の 53.9% から 52.5%へと 1.4 ポイント減少した。

性別で見ると、男性の「ある」と答えた人の割合は、前回調査の 61.5%から 59.2%へと 2.3 ポイントの減少。女性は前回の 47.6%とほぼ変わらない 47%という結果となった

年齢別で見ると、前回調査と同じく 30 歳代で「ある」と答えた人の割合が最も低く、更に前回の 39.7% から 32%へと 7.7 ポイント減少している。他の年代の割合は前回とあまり変わっていない。

居住地別で見ると、前回調査と同様に上流域になるほど「ある」と答えた人の割合は高い傾向となっている。下流域で「ある」と答えた人の割合は前回の 47.2%から 42.5%へ 4.7 ポイント減少し、逆に中流域では前回の 59.0%から 61.5%へ 2.5 ポイント増加している。

図-10 環境に関する活動への参加の有無



2-5. 環境保全のための寄付へ協力したいと思うか

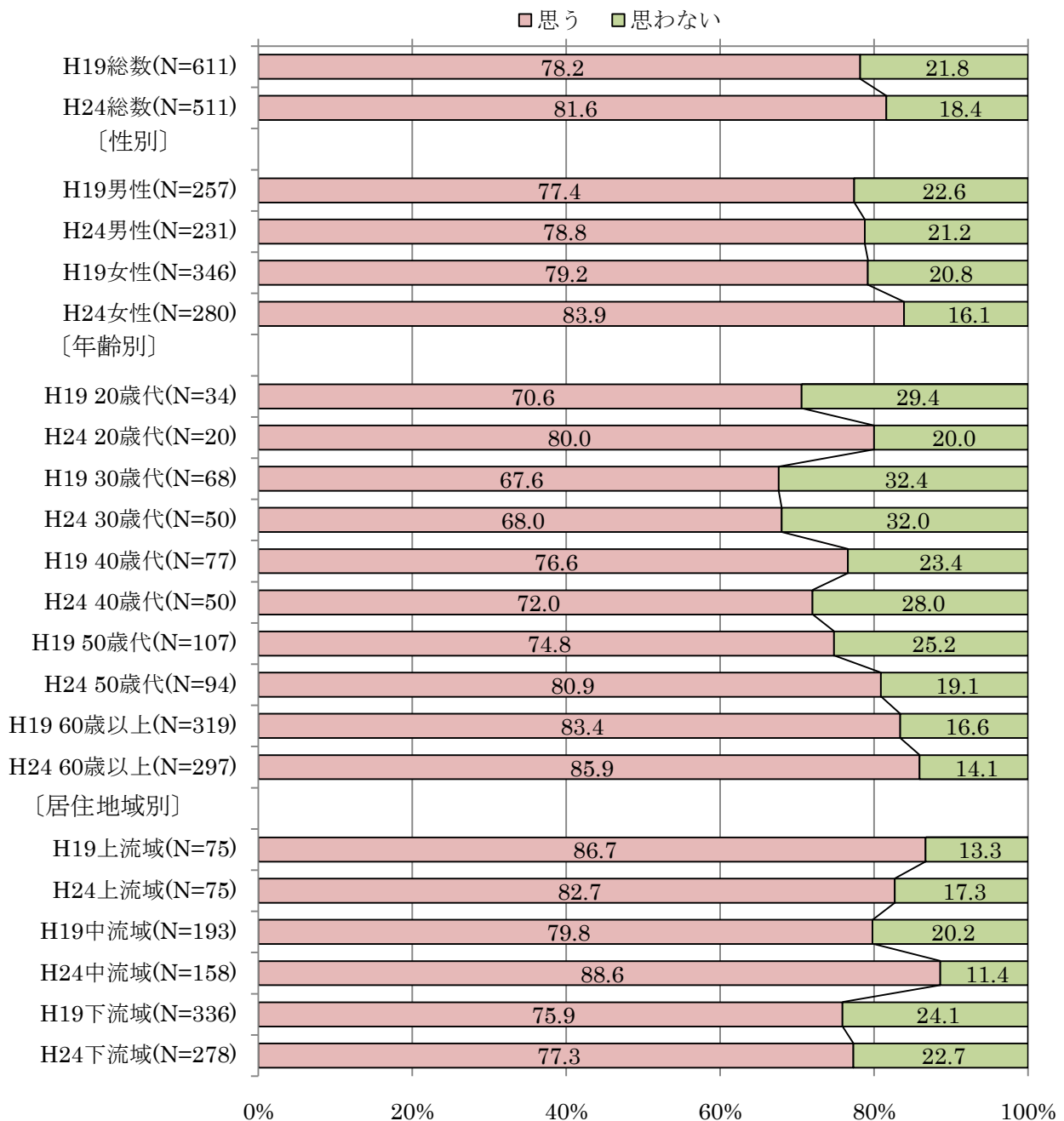
環境保全のための寄付へ協力したいと思うかについて聞いたところ、「思う」と答えた人の割合は前回調査の78.2%から81.6%へと3.4%増加した。

性別で見ると、男性で「思う」と答えた人の割合は前回調査の77.4%から78.8%へと1.4ポイントの増加、女性は前回の79.2%から83.9%へと4.7ポイント増加している。

年齢別で見ると、20歳代をのぞき年齢が上になるほど「思う」と答えた人の割合は高くなる傾向が見られる。ほとんどの年齢で前回調査から「思う」と答えた人の割合が増加しているが、40歳代のみ前回の76.6%から72.0%へ4.6ポイント減少している。

居住地別で見ると、前回調査では上流域になるほど「思う」と答えた人の割合が高かったが、今回は中流域が88.6%と最も高く、前回の79.8%と比較しても8.8ポイントと比較的増加の幅が大きい。上流域は前回の86.7%から82.7%へと4ポイント減少している。

図-1-1 環境保全のための寄付へ協力したいと思うか



2-6. 環境保全のための寄付協力可能な上限額

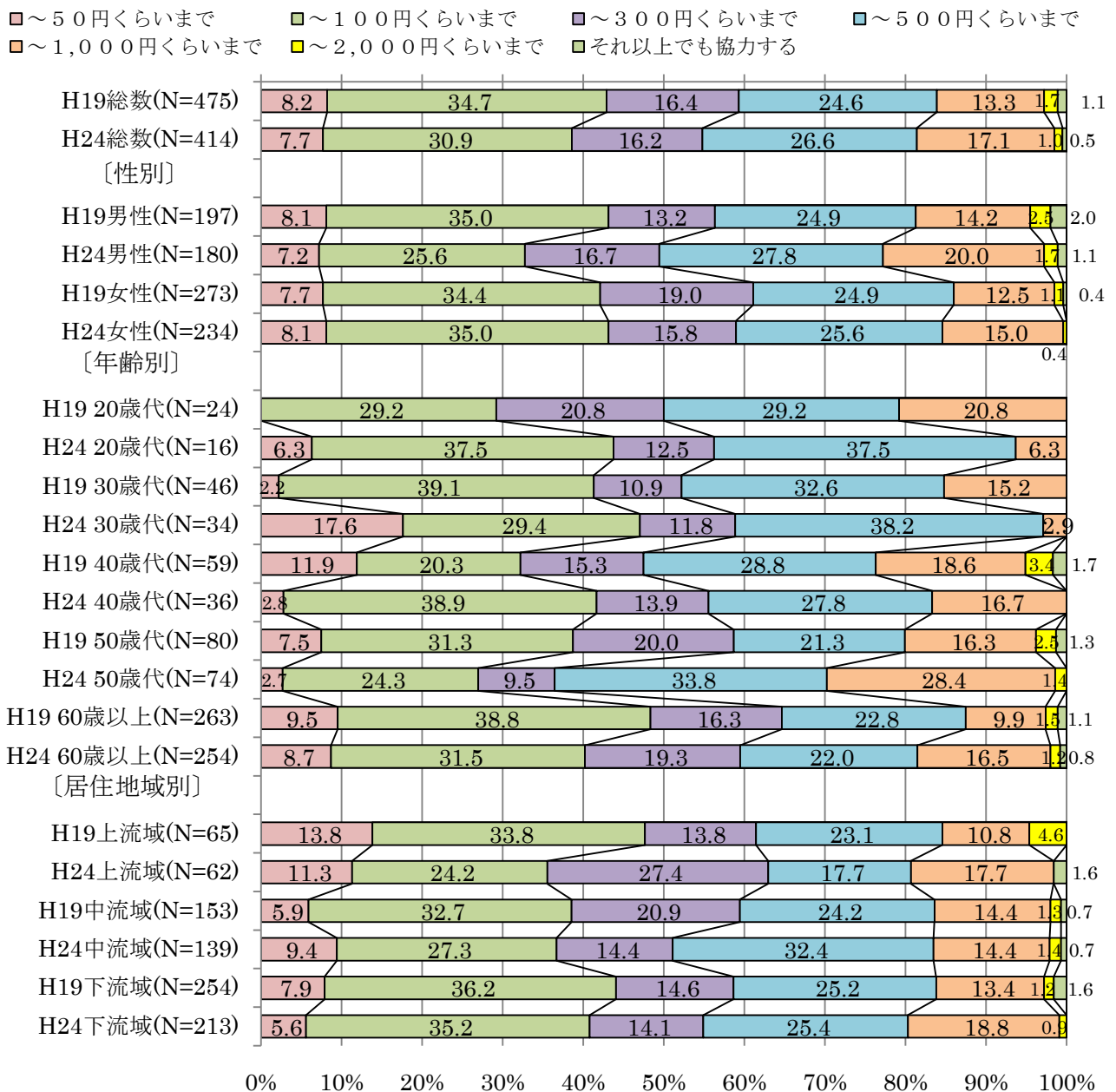
環境保全のための寄付に協力してもよいと「思う」と答えた人に、1カ月あたり協力可能な金額の上限について聞いたところ、「～300円くらいまで」以上の金額を回答した人の割合は前回調査の57.1%から61.4%へと4.3ポイント増加している。また、最も割合が高いのは「～100円くらいまで」の30.9%であった。

性別で見ると、「～300円くらいまで」以上の金額を回答した人の割合は女性は前回調査とあまり変わらないが、男性は前回の56.8%から67.3%へと10.5ポイント増加している。最も割合が高いのは、男性は「～500円くらいまで」の27.8%、女性は「～100円くらいまで」の35%であった。

年齢別で見ると、「～300円くらいまで」以上の金額を回答した人の割合が最も高いのは50歳代の73.1%で、次に60歳以上の59.8%、40歳代の58.4%となっている。前回調査で70.8%と最も高かった20歳代は今回は56.3%と大幅に減少している。

居住地別に見ると、前回調査で「～300円くらいまで」以上の金額を回答した人の割合が52.3%で最も低かった上流域は今回は64.4%で最も高くなっている。

図-12 環境保全のための寄付協力可能な上限額



3. 通信手段について

3-1. 携帯電話の有無について

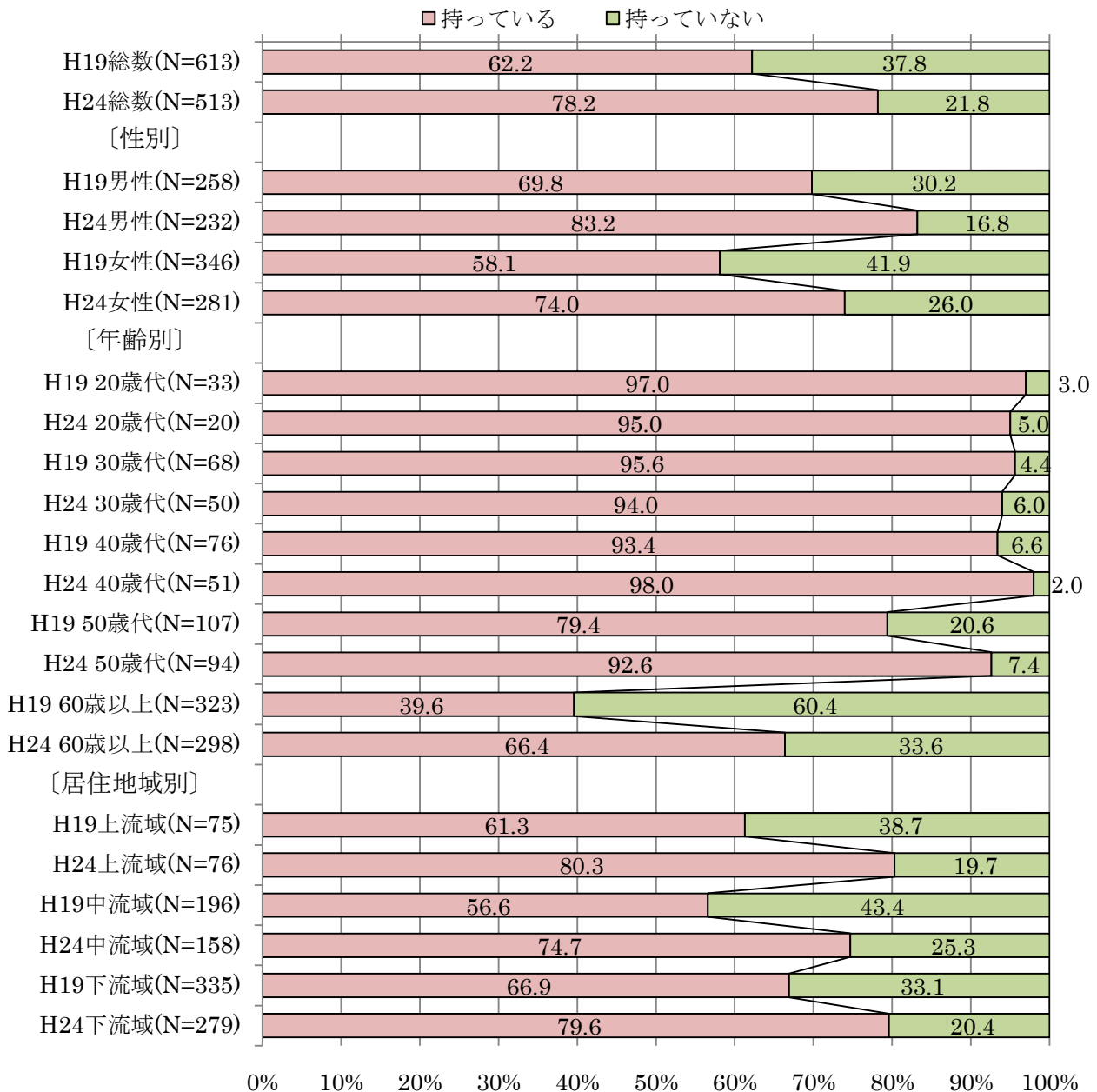
携帯電話の有無について聞いたところ、「持っている」と答えた人の割合は前回調査の 62.2%から 78.2%へ 16 ポイントと大きく増加している。

性別で見ると、前回調査と同様に男性の方が「持っている」と答えた人の割合が高いが、男性は前回の 69.8%から 83.2%へ 13.4 ポイント、女性は前回の 58.1%から 74%へ 15.9 ポイントといずれも大きく割合が増加している。

年齢別で見ると、30 歳代以下の年齢は前回調査と比べ「持っている」と答えた人の割合はあまり変化が見られないが、40 歳代以上では割合が増加する傾向が見られ、特に 60 歳以上では前回の 39.6%から 66.4%へ 26.8 ポイントと大きく割合が増加している。

居住地別で見ると、「持っている」と答えた人の割合は前回調査では下流域が最も高かったが、今回は上流域が 80.3%で最も高く、前回の 61.3%から 19 ポイント増加している。

図-13 携帯電話の有無



3-2. 携帯電話でのネット利用状況

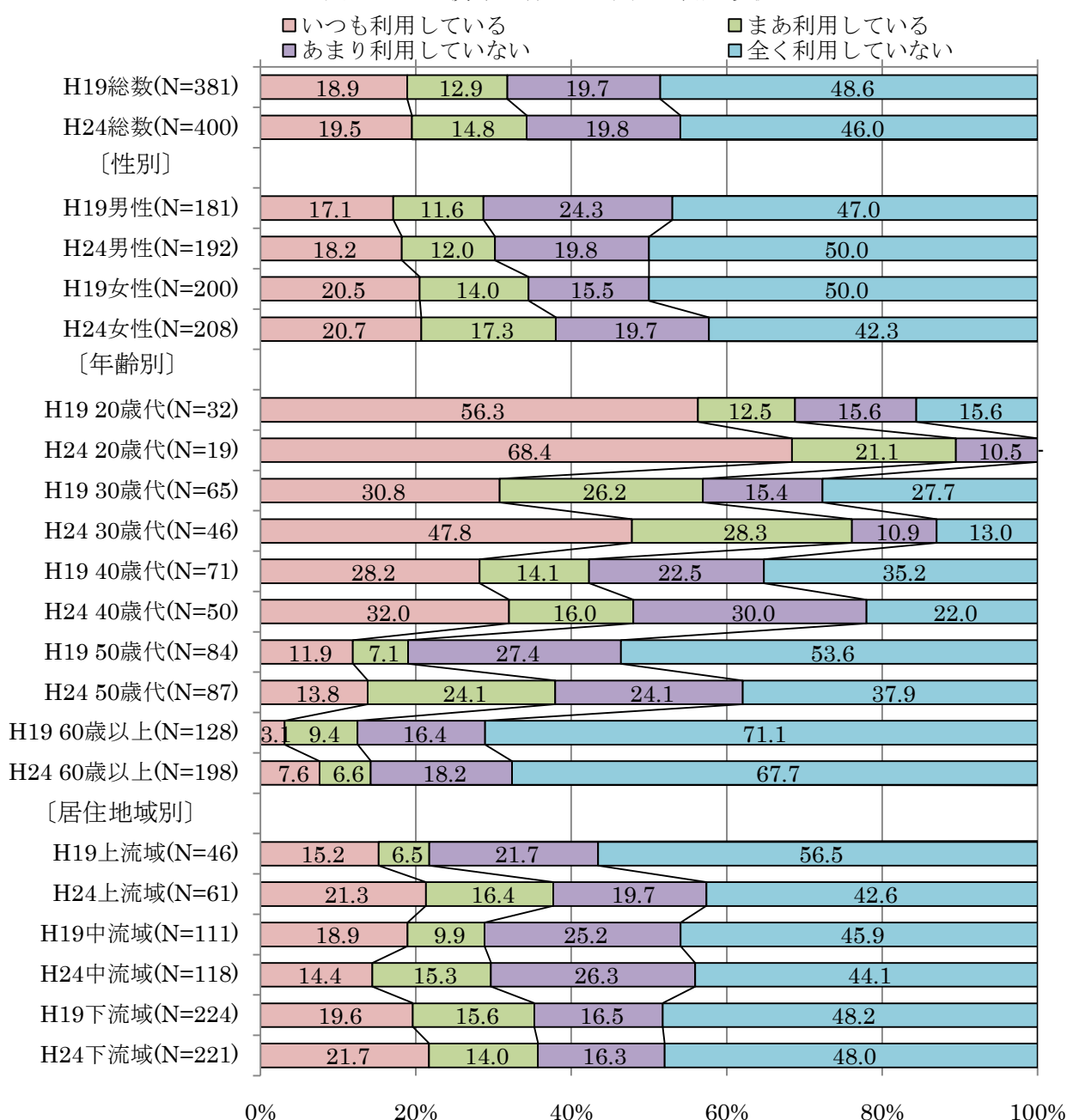
携帯電話を「持っている」と答えた人に、携帯電話でのインターネット利用について聞いたところ、「いつも利用している」と答えた人の割合は19.5%、「まあ利用している」と答えた人の割合は14.8%で、これらを合わせた「利用率」は34.3%となっており、前回調査の31.8から2.5ポイント増加している。

性別で見ると、この「利用率」は男性が30.2%、女性は38%となっており、前回調査と同様に女性の方が携帯電話でのネットの利用率が高い。また男女とも前回より「利用率」が高くなっている。

年齢別で見ると、前回と同様に年齢が上がるほど「利用率」は下がる傾向が見られ、20歳代では89.5%であるのに対し60歳以上では14.2%と、「利用率」には年齢で著しく差が見られる。また、30歳代以下の年齢は前回調査と比較すると「利用率」が20ポイント前後と大きく増加しているのが注目される。

地域別で見ると、「利用率」が前回調査で21.7ポイントと最も低かった上流域が、今回は37.7%で最も高くなり、前回と比べても16ポイントと大きく割合が増加しているのが特徴である。

図-14 携帯電話でのネット利用状況



3-3. 自宅でのネット利用の可否

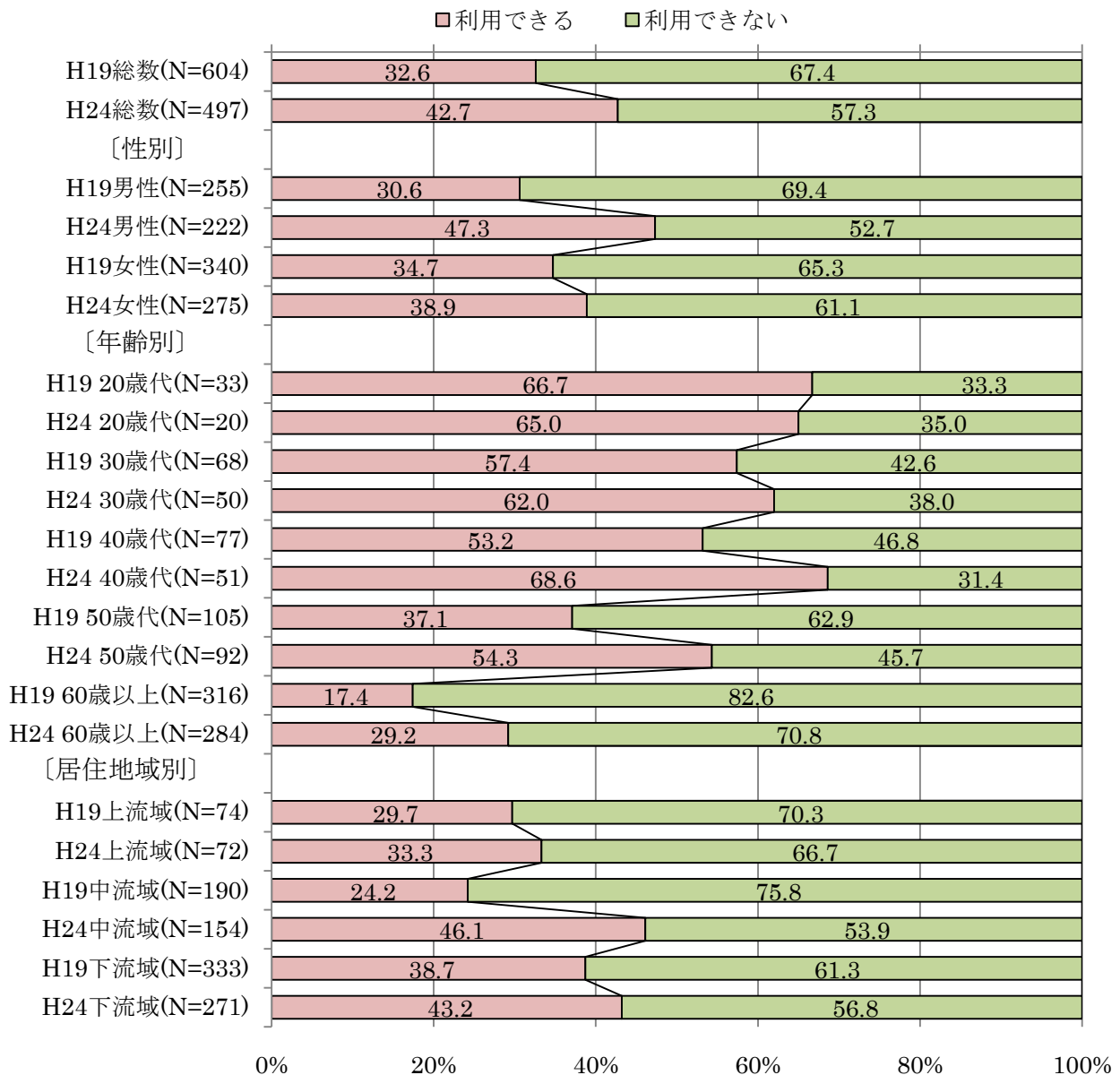
自宅でのインターネット利用の可否について聞いたところ、「利用できる」と答えた人の割合は42.7%で、前回調査の32.6%から10.1ポイント増加している。

性別で見ると、前回調査では女性の方が「利用できる」と答えた人の割合が高かったが、今回は男性の方が47.3%で女性の38.9%を上回っている。また、男性を前回の30.6%と比較しても16.7ポイントと大きく増加している。

年齢別で見ると、前回調査で「利用できる」と答えた人の割合は20歳代が66.7%で最も高かったが、今回は40歳代が68.6%で最も高く、前回の53.2%と比較しても15.4ポイント増加している。また、50歳代は前回は37.1%に対し今回は54.3%、60歳代は前回は17.4%に対し今回は29.2%といずれも増加しており、上の年齢においてネット利用が可能な割合が増加しているのが注目される。

居住地別で見ると、前回調査で「利用できる」と答えた人の割合が24.2%と他の地域と比べて最も低かった中流域が、今回は46.1%と21.9ポイント割合を増加させ、他の地域と比べて最も高くなっているのが特徴である。

図-15 自宅でのネット利用の可否



4. 居住意思と生活の満足度

4-1. 現在の居住地域に住み続けたいと思うか

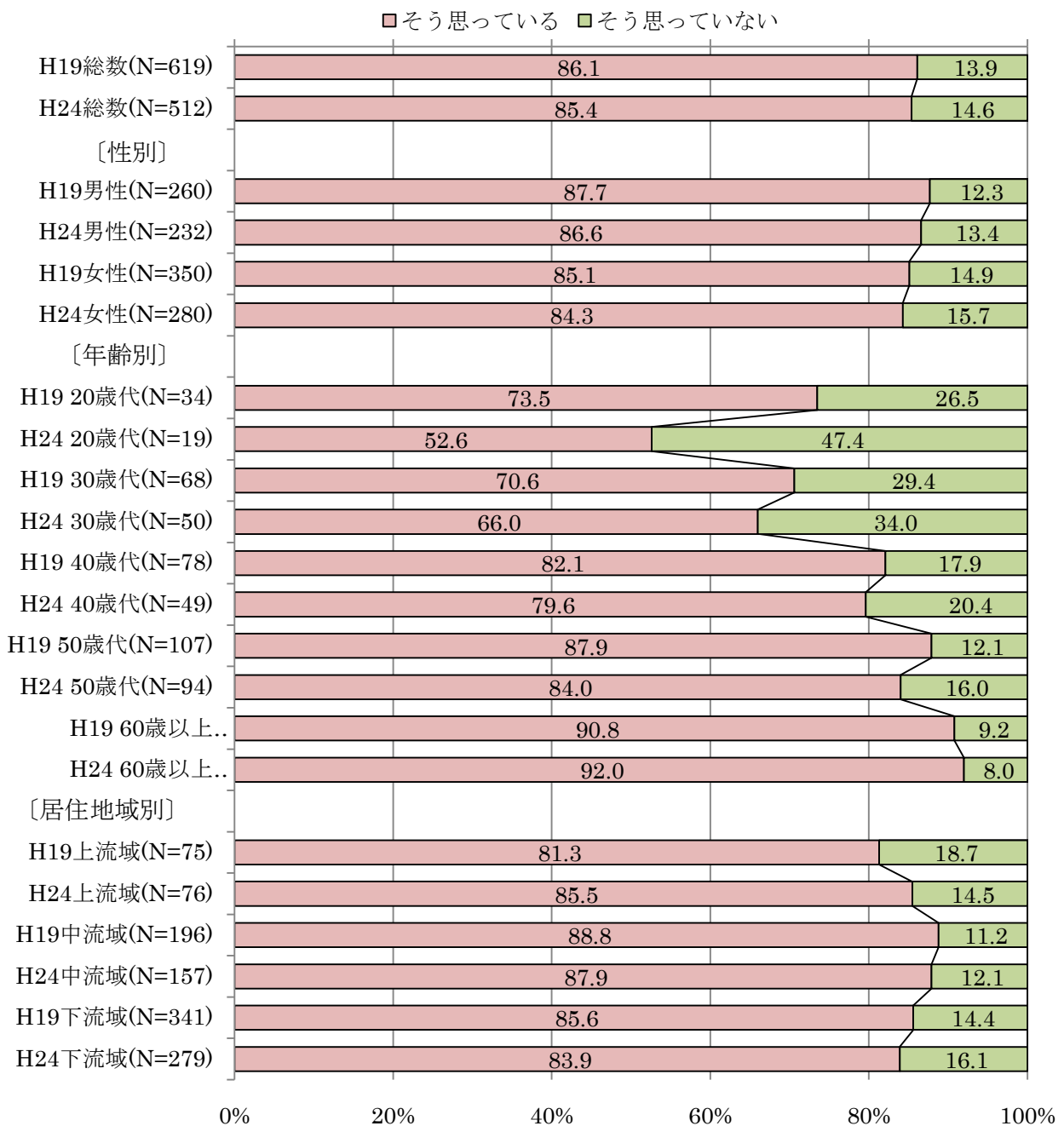
現在の居住地域に住み続けたいと思うかについて聞いたところ、「そう思っている」と答えた人の割合は85.4%で、前回調査とあまり変わっていない。

性別で見ても、「そう思っている」と答えた人の割合にあまり変化は見られない。

年齢別で見ると、前回調査と同様に年齢が上がるほど「そう思っている」と答えた人の割合は上がっているが、60歳以上を除く年齢で前回より割合が下がっており、特に20歳代は前回の73.5%から52.6%へ20.9ポイント下がっているのが注目される。

居住地域別で見ると、「そう思っている」と答えた人の割合が最も高いのは前回調査と同じく中流域で87.9%となっている。前は81.3%で最も低かった上流域は今回は85.5%と4.2ポイント増加し、最も低いのは下流域の83.9%となっている。

図-16 現在の居住地域に住み続けたいと思うか



4-2. 現在の居住地への満足度

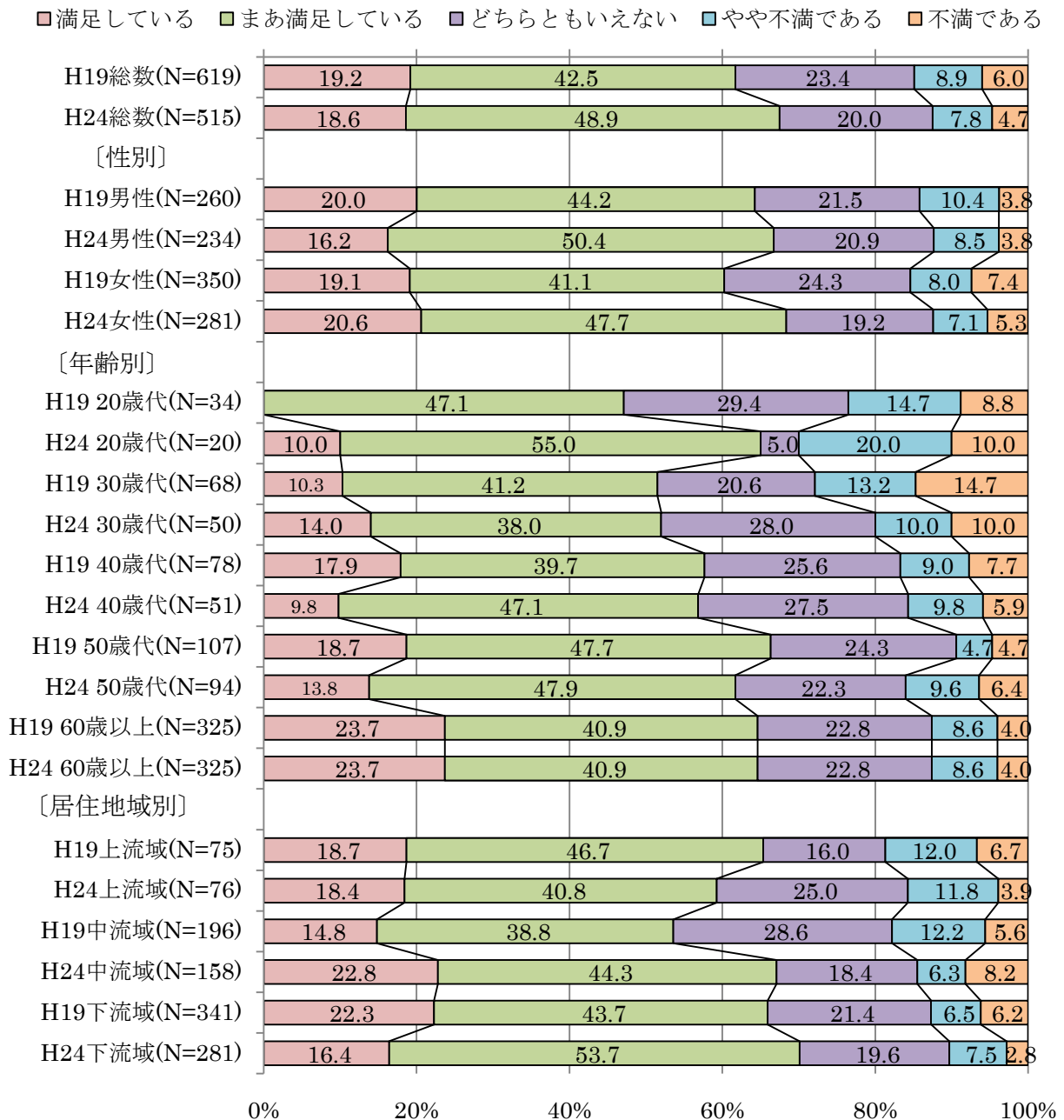
現在の居住地への満足度について聞いたところ、「満足している」と答えた人の割合は18.6%、「まあ満足している」と答えた人の割合は48.9%で、この2項目を合わせた『満足率』は67.5%となり、前回調査の61.7%から5.8ポイント増加している。

性別で見ると、前回調査の『満足率』は男性の方が女性より高かったが、今回は女性が68.3%と前回の60.2%より増加して男性の66.6%より高くなっている。

年齢別で見ると、20歳代をのぞくと年齢が上がるほど『満足率』が高くなる傾向が見られる。最も高いのは20歳代の65%となっている。

居住地別で見ると、前回調査と同様に下流域での『満足率』が70.1%で最も高い。中流域は前回は53.6%と最も『満足率』が低かったが、今回は67.1%と2番目に高くなっている。上流域は前回の65.4%から59.2%へ6.2ポイント減少している。

図-17 現在の居住地への満足度

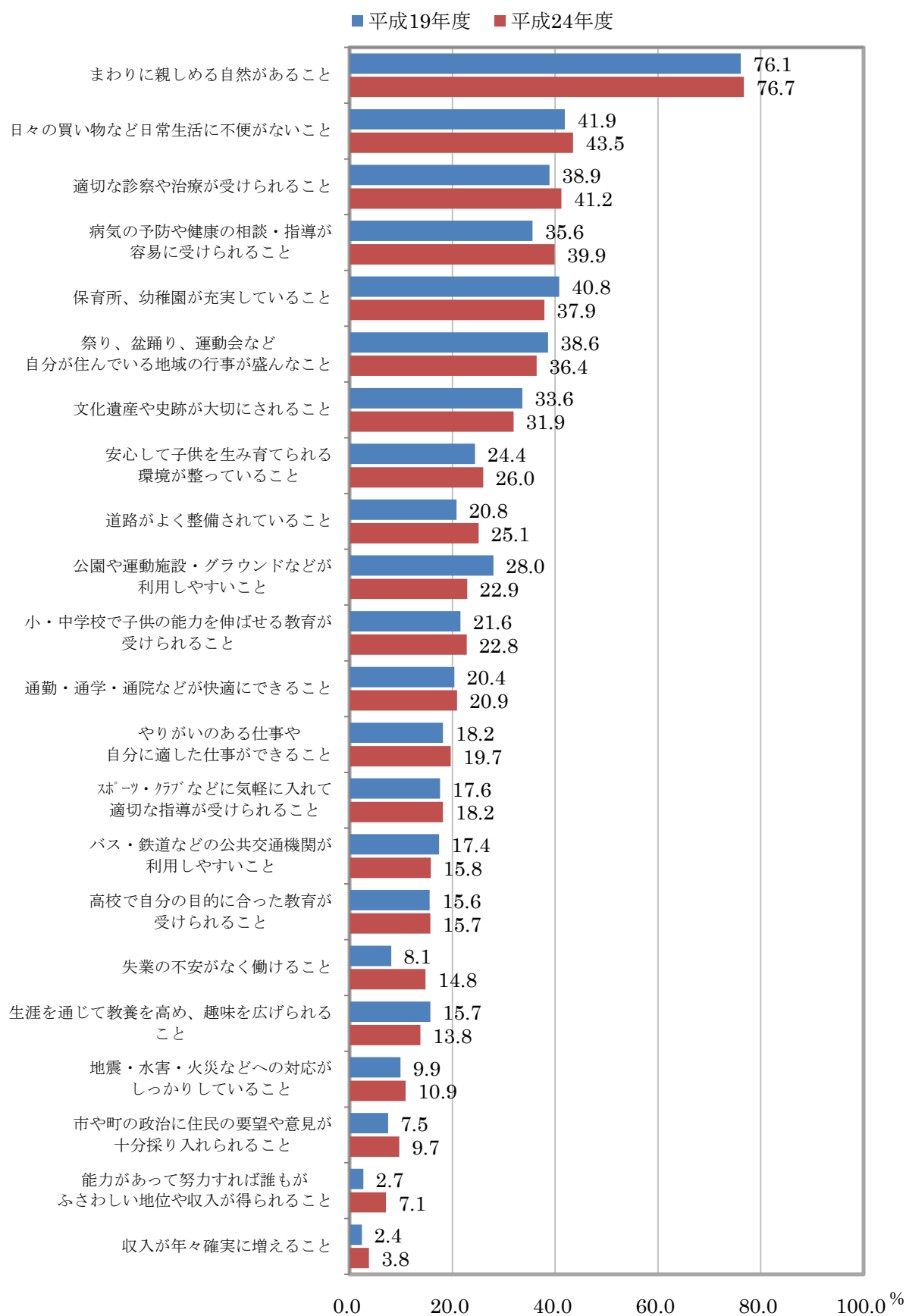


4-3. 生活の満足度

生活の満足度を項目別に聞いたところ、「十分満たされている」と「かなり満たされている」と答えた人の割合を合計した『満足率』は、「まわりに親しめる自然があること」の76.7%が群を抜いて高く、次いで「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」が43.5%、「適切な診療や治療が受けられること」が41.2%、「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」が39.9%の順で高い。逆に、『満足率』が低い項目は、低い順から「収入が年々確実に増えること」が3.8%、「能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」が7.1%、「市や町の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること」が9.7%、「地震・水害・火災などへの対応がしっかりしていること」が10.9%の順となっており、収入、市や町の対応に対する『満足率』が低いことが見てとれる。

前回調査と比較すると、22項目中16項目は『満足率』が前回より高くなっていた。中でも「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」は前回の35.6%から39.9%へ4.3ポイント増加、「道路がよく整備されていること」は前回の20.8%から25.1%へ4.3ポイント増加、「失業の不安がなく働けること」は前回の8.1%から14.8%へ6.7%増加しており、これらの項目での『満足率』の向上が目立っている。一方で「公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと」は前回の28%から22.9%へと5.1ポイント減少していることにも注意が必要である。

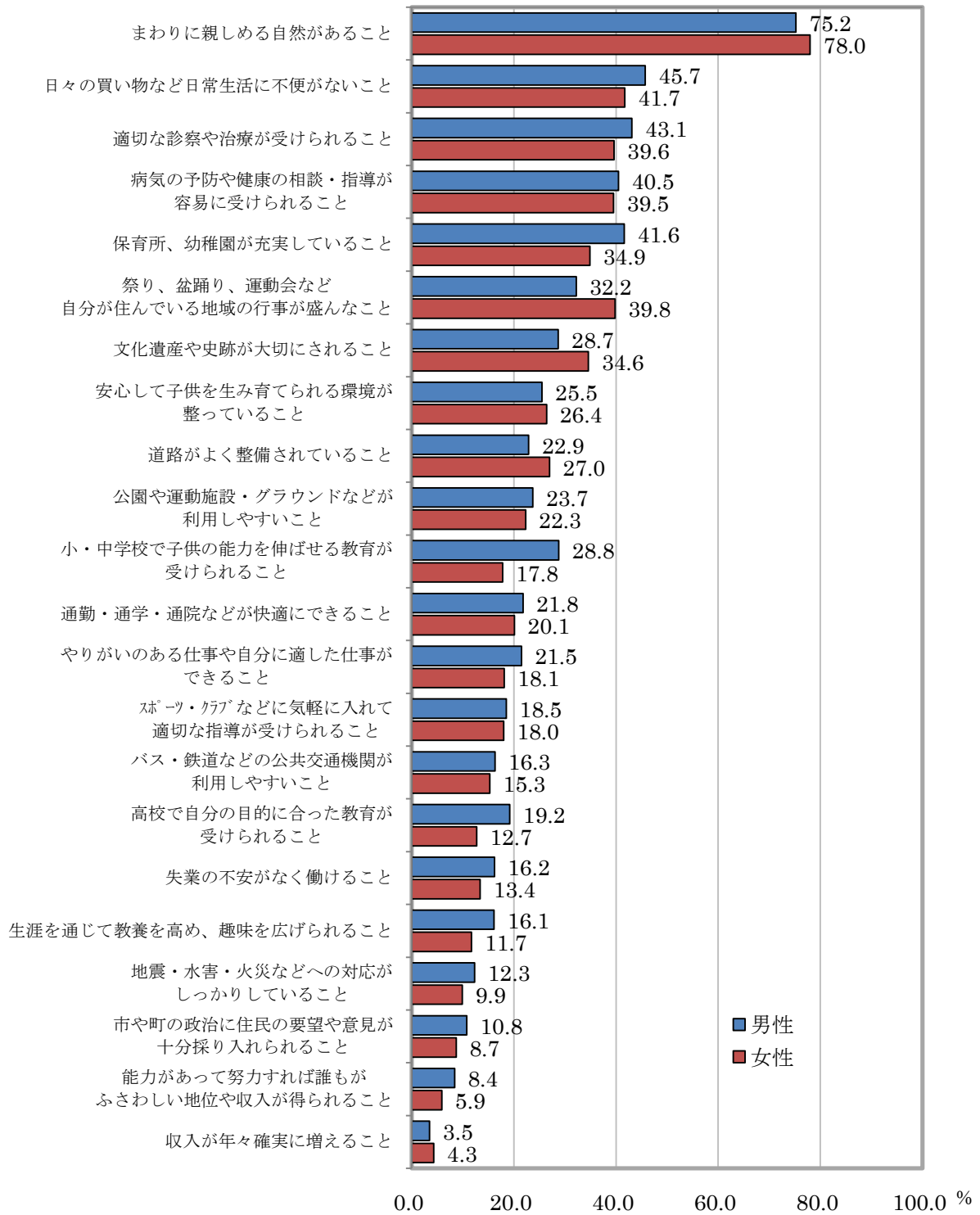
◇「いま住んでいる地域に対する満足度」（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）



【性別】

性別で『満足率』の違いを見ると、男女とも「まわりに親しめる自然があること」と答えた人の比率が最も高く、次いで「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」の比率が高いが、3番目に高い項目は男性は「適切な診療や治療が受けられること」の43.1%で、女性は「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」の39.8%となっており、男女で項目の順位には差が見られる。また、「小・中学校で子供の能力を伸ばせる教育が受けられること」の『満足率』は男性が28.8%なのに対し女性は17.8%と11ポイントの差があり、教育に関する『満足率』に差が見られるのも注目される。

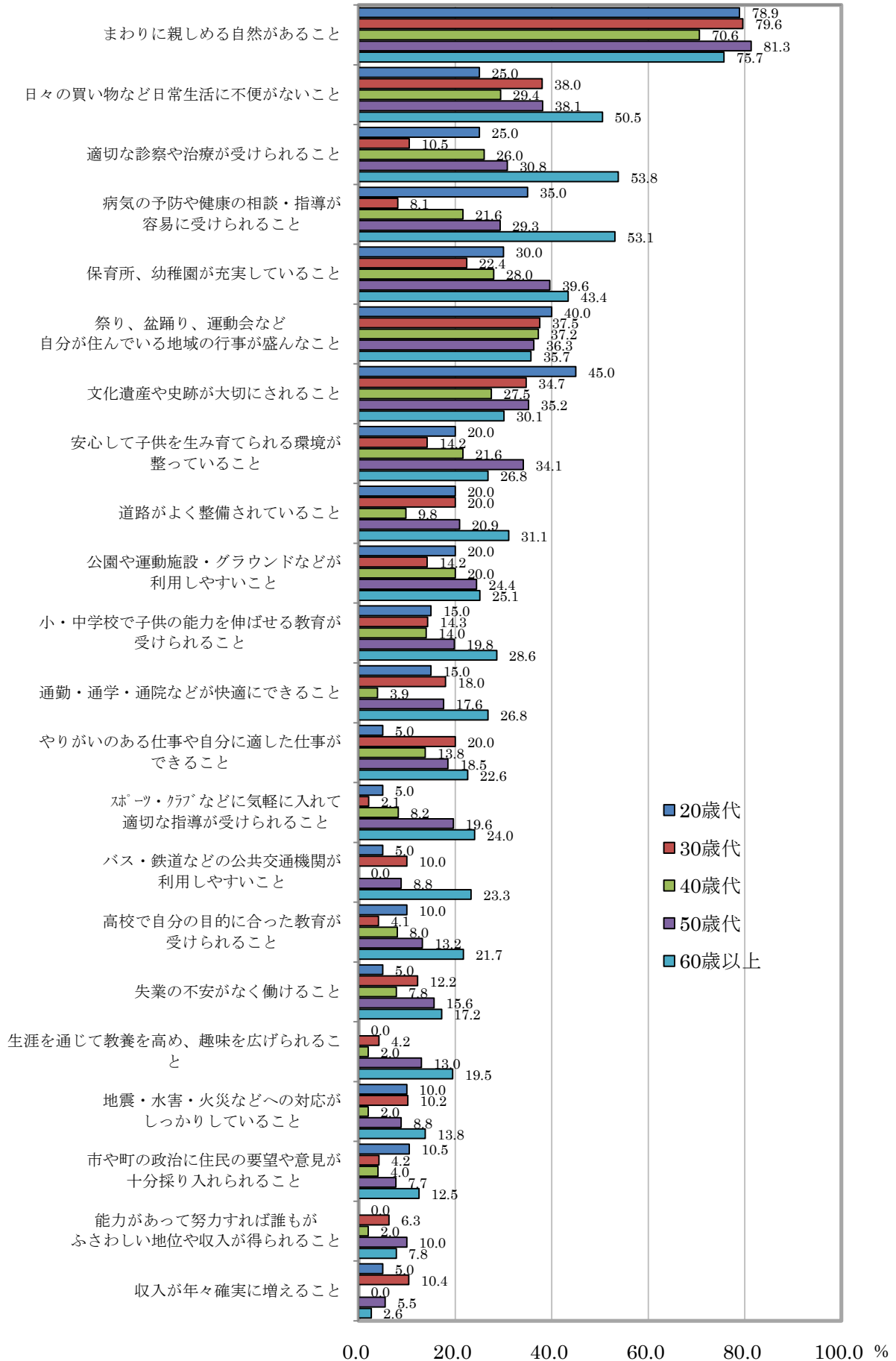
図－１９ 現在の居住地への満足率（性別）



【年齢別】

年齢別で『満足率』の違いを見ると、60歳以上の『満足率』が、22項目中16項目で他の年齢と比較して最も高くなっており、特に「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」の50.5%、「適切な診療や治療が受けられること」の53.8%や「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の53.1%は他の年齢と比較して『満足率』の差が大きくなっており、医療に関する『満足率』が60歳以上の年代で高いことが注目される。「文化遺産や史跡が大切にされること」は20歳代が45%と高く、「安心して子供を産み育てられる環境が整っていること」は50歳代が34.1%と他の年齢に比べて高くなっている。

図－２０ 現在の居住地への満足率（年齢別）



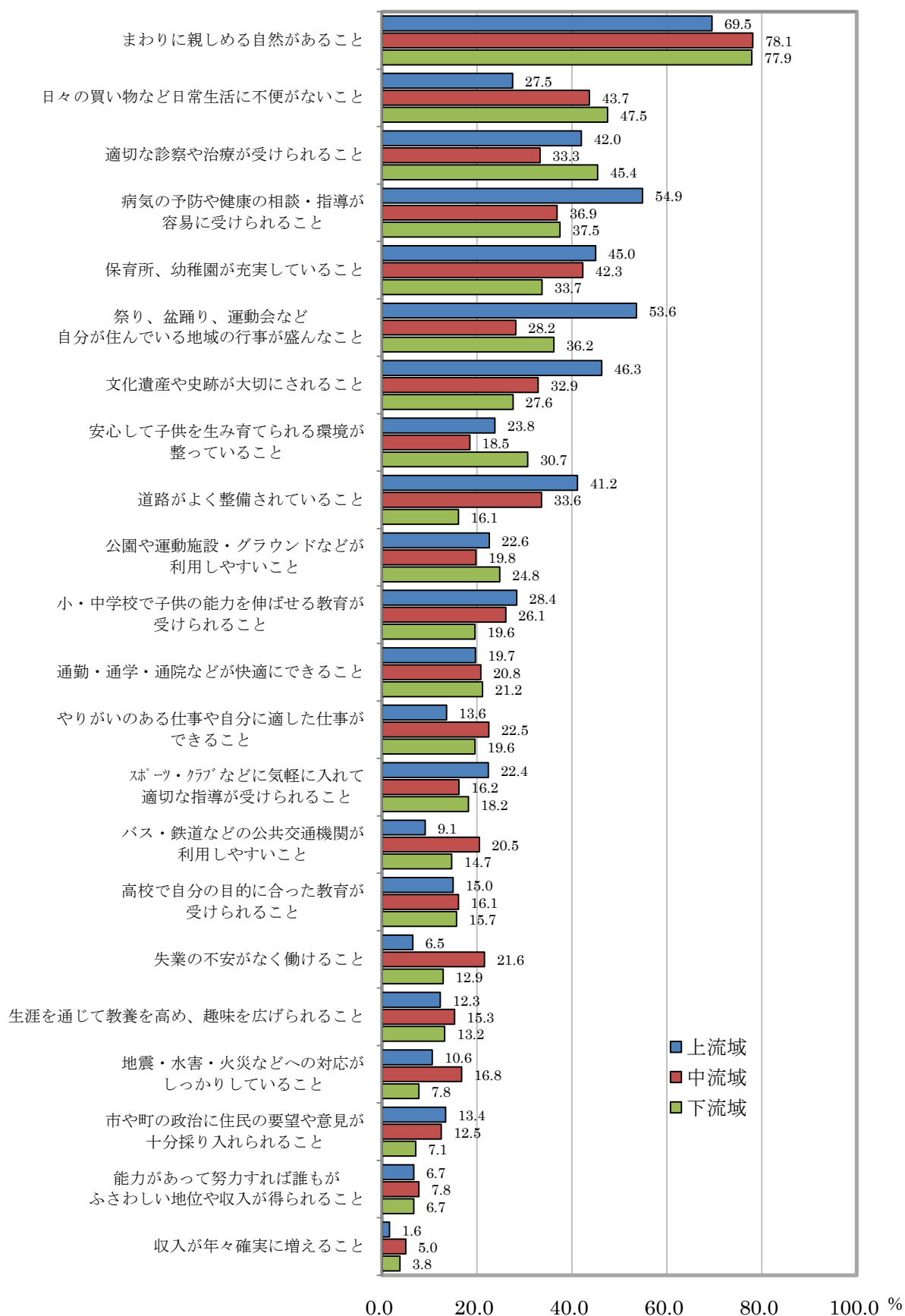
【居住地別】

居住地別で『満足率』の違いを見ると、いずれの地域とも「まわりに親しめる自然があること」と答えた人の『満足率』が最も高いが、上流域は他の地域と比べて8ポイント以上低くなっている。また、「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」も16ポイント以上他の地域より低くなっているのが特徴である。一方で、「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」、「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」などは他の地域より『満足率』が高くなっているのも注目される。

中流域では「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」、「安心して子供を産み育てられる環境が整っていること」の『満足率』が他の地域より低く、逆に「バス・鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと」、「失業の不安がなく働けること」などが他の地域より高い。

下流域では、「保育所、幼稚園が充実していること」、「道路がよく整備されていること」の『満足率』が他の地域よりも低く、「適切な診療や治療が受けられること」が比較的高くなっている。

図－２１ 現在の居住地への満足率（居住地域別）



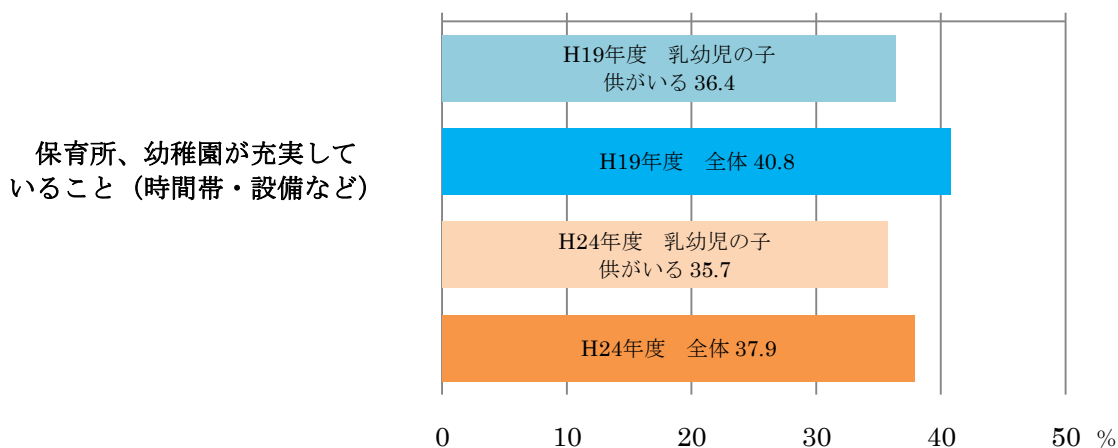
【保育・教育に関する満足率の比較】

また、「保育所、幼稚園が充実していること」について、「乳幼児」の子供がいると答えた人と全体の『満足率』を比較した。前回調査と比較すると、「乳幼児」がいる人、全体のいずれも『満足率』は下がっている。また、全体に対して「乳幼児」がいる人の方が全体より『満足率』は低いという結果になっている。

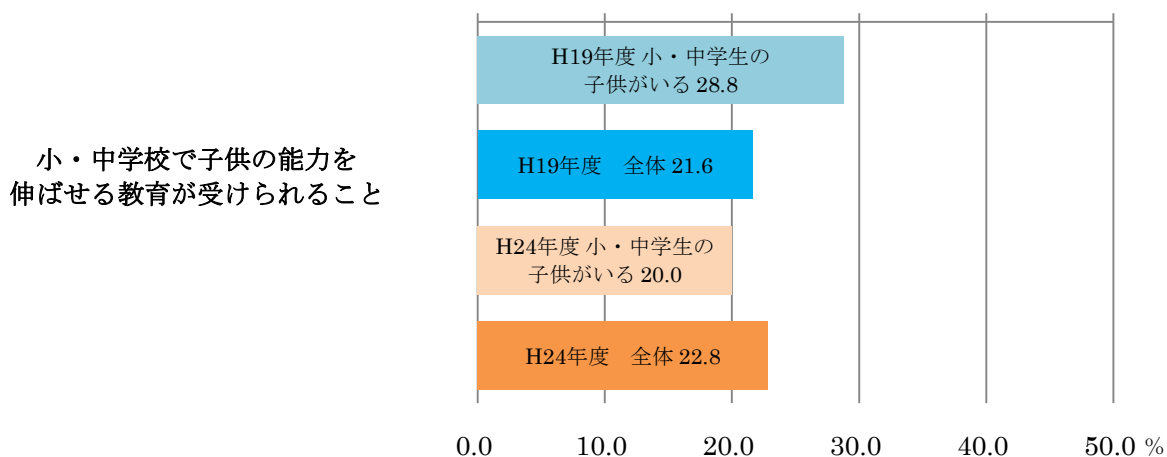
続いて、「小・中学校で子供の能力を伸ばせる教育が受けられること」について、「小・中学生」の子供がいると答えた人と全体の『満足率』を比較した。前回調査と比較すると、全体は前回の21.6%から22.8%へと1.2ポイント増加したのに対し、「小・中学生」がいる人は前回の28.8%から8.8ポイント減少している。全体と比較しても「小・中学生」がいる人の方が全体より『満足率』は低い。

最後に、「高校で自分の目的に合った教育が受けられること」について「高校生」の子供がいると答えた人と全体の『満足率』を比較した。前回調査と比較すると、全体では前回とほとんど変わらないが、「高校生」がいる人は前回の8.8%から20%へ11.2ポイント増加していることが注目される。また、全体と比較しても「高校生」がいる人の方が全体より『満足率』は高いという結果になった。

図ー 2 2 「保育所、幼稚園が充実していること」×
「乳・幼児」の子供がいると答えた人（前回比）



図ー 2 3 「小・中学校で子供の能力を伸ばせる教育が受けられること」×
「小・中学生」の子供がいると答えた人（前回比）



図ー24 「高校で自分の目的に合った教育が受けられること」×
「高校生」の子供がいると答えた人（前回比）

